

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ	ガッコウホジツン カキョウツキョウケン								
設置者	学校法人 加茂暁星学園								
フリガナ	ニホウカキョウダイガク								
大学の名称	新潟経営大学 (Niigata University of Management)								
大学本部の位置	新潟県加茂市希望ヶ丘2909番地2								
大学の目的	<p>本学は、本学創設の精神に基づき、地域社会の学術の中心として、産業経済、特に経営情報科学に関する専門の学芸を教授研究し、高度情報化並びに国際化社会の進展に応ずる実際的な知識、技術及び教養を授けるとともに、地球的視野において知的、道德的及び創造的能力を展開させ、国際社会、国家及び地域社会の生活、文化の向上と産業経済の発展に貢献する人材の育成を目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>新潟県では観光立県として観光を通じて広く地域産業の発展と地域の活性化を目指しており、地域の観光資源をコーディネートできる人材育成が求められている。しかしながら県内には観光系学部・学科を持つ大学が存在しない。かかる現状から本学の強みである経営学を通して観光を教授研究し、観光産業及び地域産業・社会に貢献できる人材育成を目的とし、観光経営学部を新設することにした。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	観光経営学部 (Faculty of Tourism Management)	年	人	年次人	人	学士 (観光経営学)	平成28年4月 第1年次	新潟県加茂市希望ヶ丘2909番地2	
	観光経営学科 (Department of Tourism Management)	4	60	—	240				
	計		60	—	240				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>経営情報学部 経営情報学科 [定員減] (△20) (平成27年3月認可申請) 新潟中央短期大学 幼児教育科 [定員増] (20) (平成27年3月認可申請) 新潟中央短期大学校舎移転改築 (平成28年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	観光経営学部	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	観光経営学部 観光経営学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任
			人	人	人	人	人	人	人
		(2)	(1)	(3)	(0)	(6)	(0)	(21)	
	既設	経営情報学部 経営情報学科	13	4	1	2	20	1	42
			(13)	(4)	(1)	(2)	(20)	(1)	(42)
		スポーツマネジメント学科	5	4	1	0	10	1	54
		(5)	(4)	(1)	0	(10)	(1)	(54)	
計		18	8	2	2	30	2	—	
		(18)	(8)	(2)	(2)	(30)	(2)	(—)	
合計		27	10	5	2	44	2	—	
		(20)	(9)	(5)	(2)	(36)	(2)	(—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		21		3		24		
			(21)		(3)		(24)		
	技術職員		4		4		8		
			(4)		(4)		(8)		
	図書館専門職員		1		2		3		
		(1)		(2)		(3)			
その他の職員		0		1		1			
		(0)		(1)		(1)			
計		26		10		36			
		(26)		(10)		(36)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：			
	校 舎 敷 地	11,509 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	11,509 m <sup>2</sup>	5,057m <sup>2</sup>			
	運 動 場 用 地	19,121 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	19,121 m <sup>2</sup>	借用期間：			
	小 計	30,630 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	30,630 m <sup>2</sup>	H24. 4. 1～20年			
	そ の 他	33,235 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	33,235 m <sup>2</sup>				
合 計	63,865 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	63,865 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	新潟中央短期大学と 共用 法令上必要面積： 2,350m <sup>2</sup>			
		6,615 m <sup>2</sup> ( 6,615 m <sup>2</sup> )	2,243 m <sup>2</sup> ( 2,243 m <sup>2</sup> )	4,487 m <sup>2</sup> ( 4,487 m <sup>2</sup> )	13,345 m <sup>2</sup> ( 13,345 m <sup>2</sup> )				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	11室	7室	1室	3室 (補助職員 一人)	1室 (補助職員 一人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		観光経営学部		14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 66,980 [7,701] 学術雑誌258 [23] 電子ジャーナル 4 視聴覚資料 1,438点	
	観光経営学部	1,800 [ 300 ] (360 [ 60 ])	25 [ 5 ] ( 25 [ 5 ])	— [ — ] (— [ — ])	50 (10)	— ( — )	— ( — )		
	計	1,800 [ 300 ] (360 [ 60 ])	25 [ 5 ] ( 25 [ 5 ])	— [ — ] (— [ — ])	50 (10)	— ( — )	— ( — )		
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		776 m <sup>2</sup>	116 席		131,000 冊				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,927 m <sup>2</sup>	サッカーグラウンド1面		テニスコート2面				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—	—	
	共同研究費等		250千円	300千円	350千円	500千円	—	—	
	図 書 購 入 費	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	1,800千円	—	—	
	設 備 購 入 費	26,790千円	800千円	1,600千円	2,400千円	3,200千円	—	—	
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,240千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入、手数料収入、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	新潟経営大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	経営情報学部	年	人	年次 人	人		倍 0.88		
	経営情報学科	4	140	3年次 15人	590	学士 (経営情報学)	0.83	平成6年度	新潟県加茂市希望ヶ 丘2909番地2
	スポーツマネジメント学科	4	50	3年次 5人	210	学士 (スポーツ経営学)	1.04	平成17年度	同上
大 学 の 名 称	新潟中央短期大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
幼児教育科	2	80	—	160	短期大学士 (幼児教育学)	1.04	昭和56年度	新潟県南蒲原郡田上 町大字川船河甲1568	
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(観光経営学部観光経営学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎必修科目	経営学の基礎	1前	2			○			1					
	簿記会計Ⅰ	1前	2			○			1					
	簿記会計Ⅱ	1後	2			○			1					
	ビジネスマナーとホスピタリティ	1前	2			○								兼1
	観光経営Ⅰ	1後	2			○					1			
	新潟県の観光	1前	2			○					1			
	観光英語Ⅰ	1前	1				○				1			兼1
	観光英語Ⅱ	1後	1				○				1			兼1
	コンピュータリテラシー基礎Ⅰ	1前	1					○	1		1			
	コンピュータリテラシー基礎Ⅱ	1後	1					○	1		1			
	基礎ゼミナールⅠ	1通	2				○		9	2	3			隔週
	英語Ⅰ	1前	1				○				1			兼1
	英語Ⅱ	1後	1				○				1			兼1
	英会話Ⅰ	1前	1				○			1				兼2
	英会話Ⅱ	1後	1				○			1				兼2
	リーディングⅠ	1前	1				○			1				兼1
	ライティングⅠ	1後	1				○			1				兼1
小計（17科目）	—	—	24	0	0	—	—	9	2	3	0	0	兼5	—
専門基本科目	観光経営Ⅱ	2前	2			○			1					兼1
	マーケティングの基礎	2前	2			○								
	財務諸表の見方・作り方	2前	2			○			1					
	キャリアデザインⅠ	2後	2			○			3		2			オムニバス
	観光英語Ⅲ	2前	1				○							兼2
	観光英語Ⅳ	2後	1				○							兼2
	観光政策論	2後	2			○					1			
	レジャー産業論	2後	2			○					1			
	基礎ゼミナールⅡ	2通	2				○		9	2	3			隔週
	コンピュータリテラシー応用Ⅰ	2前	1					○		1	1			
	コンピュータリテラシー応用Ⅱ	2後	1					○		1	1			
	オーラルイングリッシュⅠ	2前	1					○						兼2
	オーラルイングリッシュⅡ	2後	1					○						兼2
	英会話Ⅲ	2前	1					○		1				兼2
	英会話Ⅳ	2後	1					○		1				兼2
	リーディングⅡ	2前	1					○			1			兼1
	ライティングⅡ	2後	1					○			1			兼1
小計（17科目）	—	—	24	0	0	—	—	9	2	3	0	0	兼6	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門応用科目	キャリアデザインⅡ	3後	2			○			4	1					オムニバス
	観光英語Ⅴ	3前	1				○		1					兼1	
	観光英語Ⅵ	3後	1				○		1					兼1	
	観光経営Ⅲ	3前	2			○			1						
	オーラルイングリッシュⅢ	3前	1				○							兼2	
	オーラルイングリッシュⅣ	3後	1				○							兼2	
	英会話Ⅴ	3前	1				○			1				兼2	
	英会話Ⅵ	3後	1				○			1				兼2	
	英語特論Ⅰ	4前		2		○			1						
	英語特論Ⅱ	4後		2		○			1						
	中国語特論	4前		2		○								兼1	
	韓国語特論	4前		2		○								兼1	
	ロシア語特論	4前		2		○								兼1	
小計 (13科目)	—	—	10	10	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼7	—
専門選択科目	財務会計Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	財務会計Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	ビジネス法Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	ビジネス法Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	海外英語実習	2通		2				○			1			兼1	集中
	販売と経営Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	販売と経営Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	原価計算論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
	原価計算論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
	経営トップセミナー	2後		2		○			3						
	マーケティングⅠ	3前		2		○								兼1	
	マーケティングⅡ	3後		2		○								兼1	
	経営戦略論Ⅰ	3前		2		○								兼1	
	経営戦略論Ⅱ	3後		2		○								兼1	
	財務管理論Ⅰ	3前		2		○								兼1	
	財務管理論Ⅱ	3後		2		○								兼1	
	国際経済論	3前		2		○			1						
	日本経済論	3後		2		○								兼1	
	経営分析論Ⅰ	3前		2		○								兼1	
	経営分析論Ⅱ	3後		2		○								兼1	
	アジアビジネス論Ⅰ	3前		2		○			1						
アジアビジネス論Ⅱ	3後		2		○			1							
販売と経営Ⅲ	3前		2		○								兼1		
販売と経営Ⅳ	3後		2		○								兼1		
インターンシップ	3前・後		2				○	3		1				集中	
小計 (25科目)	—	—	0	50	0	—	—	—	6	0	2	0	0	兼8	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース 専門基本科目	レジャー・まちづくりコース 地域とビジネスⅠ	2前		2		○			1							
	地域とビジネスⅡ	2後		2		○			1							
	まちづくり論	2前		2		○			1							
	まちづくり実習Ⅰ	2前		2				○	1							集中
	レジャー&アウトドア実習Ⅰ	2前・後		2				○								兼3 集中
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			1	0	0	0	0	兼3	—	
	アグリ・フードビジネスコース 農業と観光	2前		2		○			1							
	フードビジネス論	2前		2		○				1						
	アグリ・フード実習Ⅰ	2前		2				○	1	1						集中
	農業ビジネス論Ⅰ	2前		2		○			1							
	農業ビジネス論Ⅱ	2後		2		○			1							
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			1	1	0	0	0	兼0	—	
	英語・ツーリズムコース 異文化コミュニケーション	2後		2		○										兼1
	通訳ガイド入門	2前		2		○					1					
	通訳ガイド演習Ⅰ	2後		2			○				1					
	旅行ビジネス論	2前		2		○			1							
	旅行業法	2前		2		○			1							
	観光産業実習Ⅰ	2前		2				○	1							集中
	旅行実務演習	2前		2				○	1							
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			1	0	1	0	0	兼1	—	
	ホテル・ホスピタリティコース 宿泊産業論	2前		2		○			1							
ホテル経営論	2後		2		○			1								
旅行ビジネス論	2前		2		○			1								
セレモニー産業論	2前		2		○			1								
宿泊関連産業実習Ⅰ	2前		2				○	1							集中	
小計(5科目)	—	0	10	0	—			2	0	0	0	0	兼0	—		
レジャー・まちづくりコース 専門ゼミナールⅠ	3通	4					○		1		1					
専門ゼミナールⅡ	4通	4					○		1		1					
環境と自然エネルギー	3前		2		○				1							
テーマパークとリゾート	3後		2		○					1						
地域とイベント	3前		2		○			1								
スキー産業論	3後		2		○										兼1	
観光と開発	3前		2		○			1								
世界遺産論	3後		2		○			1								
まちづくり実習Ⅱ	3前		2				○	1							集中	
観光調査法	3前		2		○			1								
レジャー&アウトドア実習Ⅱ	3前・後		2				○								兼3 集中	
小計(11科目)	—	8	18	0	—			3	1	1	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース 専門応用科目	アグリ・フードビジネスコース	専門ゼミナールⅠ	3通	4				○		2	1					集中 集中
	専門ゼミナールⅡ	4通	4				○		2	1						
	アグリビジネス起業論	3後		2		○			1							
	グリーンツーリズム特論	3後		2		○					1					
	農業政策論	3前		2		○			1							
	アグリ・フード実習Ⅱ	3前		2				○	1	1						
	アグリ・フード実習Ⅲ	3後		2				○	1	1						
	農業経営論	3後		2		○			1							
	食と文化	3前		2		○				1						
	商品の開発Ⅰ	3前		2		○			1							
	商品の開発Ⅱ	3後		2		○			1							
	小計(11科目)	—	8	18	0			—	2	1	1	0	0	兼0	—	
	英語・ツーリズムコース	専門ゼミナールⅠ	3通	4				○		2	1	1				
専門ゼミナールⅡ		4通	4				○		2	1	1					
観光地理		3前		2		○			1							
パブリックスピーキングⅠ		3前		2			○			1						
パブリックスピーキングⅡ		3後		2			○			1						
通訳ガイド演習Ⅱ		3前		2			○		1							
通訳ガイド演習Ⅲ		3後		2			○		1							
通訳ガイド総合演習		3後		2			○		1							
ビジネスイングリッシュⅠ		3前		2			○									
ビジネスイングリッシュⅡ		3後		2			○									
航空ビジネス論		3前		2		○										
交通サービス論		3後		2		○										
観光産業実習Ⅱ		3前		2				○	1							
小計(13科目)	—	8	22	0			—	2	1	1	0	0	兼2	—		
ホテル・ホスピタリティコース	専門ゼミナールⅠ	3通	4					○	2						集中 兼1 兼1 兼1 兼1	
	専門ゼミナールⅡ	4通	4					○	2							
	宿泊関連産業実習Ⅱ	3前		2				○	1							
	ホスピタリティ産業の人材管理	3前		2		○			1							
	民宿・旅館経営論	3後		2		○			1							
	着物文化と演習	3前		2			○									
	ブライダル論	3前		2		○										
	ブライダル演習	3後		2			○									
	秘書概論	3前		2		○										
	秘書実務	3後		2		○										
	サービスと接遇	3前		2		○			1							
小計(11科目)	—	8	18	0			—	3	1	0	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目	中国語Ⅰ	2前		1			○								兼1	集中 オムニバス	
	中国語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	中国語会話Ⅰ	3前		1			○								兼1		
	中国語会話Ⅱ	3後		1			○								兼1		
	ロシア語Ⅰ	2前		1			○		1								
	ロシア語Ⅱ	2後		1			○		1								
	ロシア語会話Ⅰ	3前		1			○		1								
	ロシア語会話Ⅱ	3後		1			○		1								
	韓国語Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	韓国語Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	韓国語会話Ⅰ	3前		1			○								兼1		
	韓国語会話Ⅱ	3後		1			○								兼1		
	小計(12単位)	—	0	12	0	—			1	0	0	0	0		兼2		
	一般教養科目	法学	1前		2		○										兼1
		心理学	1前		2		○										兼1
経済学		1後		2		○									兼1		
現代社会と福祉		1後		2		○									兼1		
日本国憲法		1前		2		○									兼1		
教養の自然科学		1前		2		○									兼1		
地理学		1前		2		○									兼1		
外国史		1後		2		○									兼1		
教養の文章理解Ⅰ		1前		2		○									兼1		
教養の文章理解Ⅱ		1後		2		○									兼1		
アウトドアスポーツ		1後		2				○							兼3		
スポーツ&レジャー		1前		2				○							兼4		
宗教学		1後		2		○									兼1		
アジア言語入門(中・露・韓)		1通	2				○		1						兼2		
現代社会と情報	1後	2			○									兼1			
小計(15科目)	—	4	26	0	—			1	0	0	0	0		兼16			
合計(167科目)			—	70	218	0	—		9	2	3	0	0		兼34		
学位又は称号		学士(観光経営学)			学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
専門基礎必修科目24単位(すべて必修科目)、専門基本科目24単位(すべて必修科目)、専門応用科目から必修科目10単位を含め12単位以上、専門選択科目から14単位以上、2年次に4つのコースの中から1つのコースを選択後そのコースにおけるコース専門基本科目から8単位以上、3年次に2年次に選択したコースにおけるコース専門応用科目から必修科目8単位を含め24単位以上、教養科目の外国語科目(1言語で継続して)から4単位、教養科目の一般教養科目から必修科目4単位を含め14単位以上修得し、124単位以上修得すること。(履修科目の上限:1年次のみ44単位(年間))							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
観光経営学部観光経営学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	経営学の基礎	<p>本科目は、経営学の導入の更にその入口に位置づけられるものではあるが、情報化社会の進展にともない経営学もダイナミックに進化している。そこで、できる限り最新の経営学の動向を取り入れつつ進める。前半は、基礎的な経営学を中心に、専門用語とキーポイントの理解を中心に進める。後半は、取り上げる企業の沿革、成長過程および戦略、成功要因の分析などを比較しながら理解を深める。</p> <p>また、受講生が、経営学に関心を持ち、授業で用いた専門用語・知識を、レポートやディスカッションで自由に使いこなせるレベルを目指す。</p>	
	簿記会計Ⅰ	<p>簿記は、帳簿に記入するためのルールを定めたものであり、「帳簿記入」という言葉からつくられた造語といわれている。会社や商店は、その活動から生じるいろいろな事柄を整然と記録し、その利害関係者に経営成績や財政状態を明らかにしなければならないが、簿記はこれら会計情報を作成する上の手段として欠くことができない。本科目は、日商簿記3級レベルに対応しており、十分な問題演習を盛り込み学習していく。</p> <p>また、受講生が、日商簿記3級レベルの知識を習得できることを目標とする。</p>	
	簿記会計Ⅱ	<p>本科目は、簿記会計Ⅰで習得した知識を基礎に、試算表・損益計算書と貸借対照表の作成を行う。また、決算手続きとして、売上原価の算定、現金過不足・消耗品、貸倒れ・減価償却、繰延べ・見越しについて学習するとともに、伝票会計について解説する。さらに、仕訳、仕訳帳、合計試算表、残高試算表、記帳方法の変更、伝票、精算表、貸借対照表と損益計算書の作成に関する総合演習問題を行う。</p> <p>また、簿記会計Ⅰと同様に、受講者が、日商簿記3級合格レベルに到達することを目標とする。</p>	
	ビジネスマナーとホスピタリティ	<p>本科目はビジネスパーソンとして活躍していく上において欠かせないビジネスのマナーの基本をまず学ぶ。具体的には就業マナー、応対や訪問さらには日常的に使われるビジネス文書、電話やメールについてまで学ぶ。また、社会のグローバル化に伴って国際的なビジネスマナーも身に付けねばならない。さらには、ビジネスマナーを身に付け理解していても、相手に対しての敬いやおもてなしのマインドがなければならない。これらのことを踏まえ、ビジネス社会に限らず一般社会においても活躍できる人材の養成が本科目の狙いである。</p>	
	観光経営Ⅰ	<p>本科目は、経営と観光とは何かの問いからはじまり、観光の基礎固めをしていく。その上で観光供給を担う各種事業活動の全貌を経営学の枠組みと理論に基づいて概観する。また、観光は従来からの旅行、宿泊、運輸のほか、近年にはスポーツ、農業、自然環境、ものづくり、飲食業、その他の産業等々、多様な分野に広がっており、今後に期待できる分野といえる。そうした動向を踏まえ、観光産業に関わるさまざまなビジネスを経営学の視点から体系的に理解し且つ、総合的に学習し今後につなげていく。</p>	
	新潟県の観光	<p>本科目は新潟県に存在する大学としてまず、県内の観光の現状を把握するところからスタートする。わが国では平成24年度から新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定され、観光を重要な成長戦略の一つとしており、本県でも観光立県としてその方向性を「観光立県推進行動計画」として発表している。本県の豊かな自然、食、温泉、文化、スキー、マリンスポーツ等の資源を市場との関わりで探っていく。空、海、鉄道、高速道等交通機関との有機的な活用をも含め、学習していく。また、バスによる県内視察も行い実際を確かめる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎必修科目	観光英語Ⅰ	一般英語と観光英語の違いについて学んだ後、英語圏の国におけるマナーや習慣の違いを認識し、旅行や観光に関連する専門用語、慣用表現、国際的な常識等についての英文を読み理解する。また、ホテル、旅行会社、旅行案内所、空港、レストラン等、観光業界のスタッフが知っておくと便利な英語を学ぶ。リスニング、スピーキング練習に、読解と作文練習も加えて多面的に学習していきながら、ペアワークで重要表現を習得する。	
	観光英語Ⅱ	英語圏以外の国々におけるマナーや習慣の違いを認識する。旅行や観光に関連する専門用語、慣用表現、国際的な常識等についての英文を読み理解する。また、ホテル、旅行会社、旅行案内所、空港、レストラン等、観光業界のスタッフが知っておくと便利な英語をロールプレイで練習する。リスニング、スピーキング練習に、読解と作文練習も加えて多面的に学習していきながら、ペアワークで重要表現を習得する。	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅰ	現代の社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められる。情報リテラシーは現代社会における必須能力である。情報リテラシーの大きな柱の一つである情報活用能力は、情報の探索・整理・発信を行うためのコンピュータの利用やプレゼンテーションに関する能力である。コンピュータリテラシー基礎Ⅰでは、パソコンの基本操作、ワープロによる文書作成、プレゼンテーションソフトによるスライド作成方法、などを演習形式で学ぶ。そして、大学生として必要不可欠なコンピュータリテラシーをトータルで身につける。	
	コンピュータリテラシー基礎Ⅱ	現代の社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められる。情報リテラシーは現代社会における必須能力である。情報リテラシーの大きな柱の一つである情報活用能力は、情報の探索・整理・発信を行うためのコンピュータの利用やプレゼンテーションに関する能力である。コンピュータリテラシー基礎Ⅱでは、ワープロによる文書作成、プレゼンテーションソフトによるスライド作成方法、表計算ソフトの活用方法などを演習形式で学ぶ。そして、大学生として必要不可欠なコンピュータリテラシーをトータルで身につける。	
	基礎ゼミナールⅠ	大学における学びをより広く深くそして、効率よく進めていくために少人数制をとり、「読む」「書く」「調べる」「発表する」能力やスキルを基礎からしっかり学ぶ。大学で学ぶということは、単に講義を聴くだけでなく、自分で調べたり、それを発表するなど前向きな態度が求められる。また、具体的には、大学の各種授業においてはレポートや論文の提出が求められるが、その書き方や情報収集・資料検索なども学び、2年次以降への発展演習につなげていく。	隔週
	英語Ⅰ	英語4技能をバランスよく伸ばすことを目標に、基礎的な例文の音読を繰り返すことによって英語を話す筋肉と勘を鍛える。また、適切なレベルの英文記事の読解を通して、基本的文法などをバランスよく学習する。短くて、実際に日常生活の中で使えそうな表現を何度も口に出す練習や、ネイティブが話している言葉を同じように言えるまでまねる訓練を繰り返す。これにより自然と英語が身につくようする。また、基本的な文法の復習を通して基礎力を養う。	
	英語Ⅱ	英語4技能をバランスよく伸ばすことを目標に、発展的な例文の音読を繰り返すことによって英語を話す筋肉と勘を鍛える。また、適切なレベルの英文記事の読解を通して、高校レベルの文法などをバランスよく学習する。ある程度の長さの表現を覚えて、日常会話や、英作文に活用できるようにする。英語ニュースや英語インタビューなどを通して、リスニング力を高めるとともに、実践的な会話力を身につけるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英会話Ⅰ	音楽や外国文化を通して、ビギナーレベルの学生が基本的なスピーキング技術を習得する授業である。同時に、リスニング、リーディング、ライティングについても学習する。洋楽やスポーツ、美術、趣味、習慣などの文化的なトピックについての英文を読み、その内容について、ペアワークで会話をするとともに、グループごとにディスカッションを行なう。また洋楽を聞き取り、実際に歌ってみることで、英語特有のリズム感、イントネーションを身につける。	
	英会話Ⅱ	中級レベルの学生が対象である。音楽や外国文化を通して、スピーキング力をレベルアップさせる。また、同時にリスニング、リーディング、ライティングの力も鍛える。洋楽やスポーツ、美術、趣味、習慣などの文化的なトピックについての英文を読み、その内容について、ディスカッションを行なう。またこのレベルでは、英語スピーチも行なう。洋楽を聞き取り、実際に歌ってみることで、英語特有のリズム感、イントネーションを身につける。	
	リーディングⅠ	経済・ビジネスの世界で求められる情報や世界のグローバリゼーションの進展や、負の側面について学習し、英語の力だけでなく、経済・ビジネスの基礎を身につける。世界の現在の流れやインターネットについて基礎的な知識が身についたと実感できる状態に到達させる。英字新聞や英語雑誌をよむために必要な語彙を増やし、実社会で役立つ英語読解力を身につける。速読や精読を組み合わせ、多様な文献に対応できるようにする。	
	ライティングⅠ	基礎的な文法を振り返りながら、日常の出来事を英語で書けるように、様々な表現を覚える。徐々に、時事問題に関する、自分の意見を書けるようにする。そのためには、語彙や表現とともに、問題意識を持つことが大切になるため、日本語、英語両方で、時事問題に関する知識を得る。新聞やインターネット上の記事を使うが、その際は正確かつ効果的に情報を得てそれを理解し、批判的に検討したうえで、ライティング練習を行なう。	
	観光経営Ⅱ	本科目においては1年次の「観光経営Ⅰ」を土台として、観光産業における企業経営の組織活動について長期的視点から効率的な運営方法を体系的に研究する。また、組織体や企業が、業績や利益を向上させるためには、どのような行動をとればよいかを考え、教授する。 なお、本科目では、観光を通じて、経営学の理論及び事例を用い、マネジメントの重要なポイントを体系的に学ぶ。また、基本戦略を学ぶことにより、より優れた企業経営のあり方を探っていく。	
	マーケティングの基礎	供給過多な現代において、消費者自らが、買いたいと思い購買行動に結び付けるマーケティングがますます重要となっている。 本科目は、マーケティングの基礎であるマーケティングの意義や活動のプロセスについて学ぶ。具体的には、マーケティングの歴史、諸活動などについて解説するとともにマーケティング・マネジメントの中心である製品・ブランド・価格・プロモーション・チャネルの各戦略についてケースを交えながら考えてみる。また、受講生が、マーケティングの基礎的・基本的な考え方を理解することを目標とする。	
	財務諸表の見方・作り方	本科目はビジネス社会で活躍するには計数の理解が必要である。とりわけ財務諸表の見方がまず、わからねばならない。企業の活動の結果を表すものが財務諸表であり、今後の方向性を示すものであり、且つ、企業活動の戦略に欠かせない必要な知識である。学ぶ中身は貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書が中心となる。また、作成することによりその仕組みと果たす役割が認識できる。1年次で学んだ簿記会計を基盤としており、3年次の財務管理や経営分析に繋げる科目ともなる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基本科目	キャリアデザイン I	<p>本科目では人生の中でも重要な期間である大学生活での過ごし方について考え、人生設計に不可欠な基礎作りをすることを目標にしている。未来の自分はどうかあるべきか。現時点でできることは何か。このため自分についての理解を深めていく。上級生や外部講師の話聞き、キャリア形成について考える。なお、自己発見レポートを作成するなどして確認する。さらには自己プログレストレポートの受験をし、一層その確認を深める。3年次への学習に繋げる。教員はオムニバス方式であるが原則全員出席である。なぜなら、それぞれのキャリア（進路等）に関する質問等その場でアドバイスできるからであり、また、個々の状況を把握できるからである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (2 藪下保弘/3回)  ①ガイダンス②会社とは？社会とは？③コミュニケーション講座(基本) (外部講師招聘)  (9 高橋修一郎/全3回)  ④自己発見レポート⑤社会人の基礎力の重要性⑥さまざまな働くかたち  (4 出口高靖/全3回)  ⑦社会で活躍する人物とは⑧コミュニケーション講座 (外部講師招聘) ⑨就職内定者の体験談  (13 バロリ・ブレンディ/3回)  ⑩卒業生の職場・就業報告⑪業界の調べ方 (全体) ⑫業界の調べ方(観光産業)  (12 井上信恵/3回)  ⑬自己プロGRESS⑭自己プロGRESSフォローアップ⑮まとめ (全員)  *平成29年度には高橋修一郎教授が就任していないのでこの年度に限り藪下保弘教授が①～⑥を担当する。</p>	オムニバス方式
	観光英語Ⅲ	<p>観光英語検定の3級を目指す。ホテルや飛行機内での英語、および旅行者や添乗員、外国人旅行者に国内を案内するガイドという立場になった場合に求められる英語を介したコミュニケーション能力を磨く。3級合格に必要な、約3000語の語彙力、基本的な文法・構文の知識を確実に身につける。また、海外グループ旅行での英語、国内で外国人に対して道案内やパンフレット類を英語で説明出来るようにする。</p>	
	観光英語Ⅳ	<p>観光英語検定の2級を目指す。海外で個人旅行をする時、個人で旅程を組み、乗り物やホテルの予約、また単独で観光や買物等を英語で対処することが出来るようにする。また、国内で外国人に観光地や名所旧跡等を英語で紹介出来るようにする。2級合格に必要な、約5,000語の語彙力、適切な文法・構文の知識を確実に身につける。さらに海外におけるマナーや習慣の違いを認識し、旅行や観光に関連する専門用語についても学習する。</p>	
	観光政策論	<p>本科目は、「観光経営基礎」を学んだ後に学習する。この科目を学ぶ意義やその目的は何かからスタートとする。「観光」は人間にとって精神的・肉体的なリフレッシュ作用を生むといわれており魅力的なものといわれている。政策的な面からは、経済的効果や文化的効果、さらには国際親善や平和の推進なども重要なものと捉えている。観光の現状と課題を理解し、政策が及ぼす経済的効果について学ぶ。なお、各制度例えば観光カリスマ制度や通訳ガイドの制度など学生の関心のあるテーマも取り上げ、諸外国の観光政策はどうかについても論及していく。</p>	
	レジャー産業論	<p>本科目はレジャー及びレジャー産業について経済との発展の中で講義していく。余暇の考え方、活用方法などレジャーの内容も大きな変化を見せている。また、わが国におけるレジャー産業は、その消費において、かなりのウエイトを占めるにいたっており、その分析も重要である。レジャー産業が社会・経済の変化に大きく影響されてきた歴史やレジャーの業界別に現状と動向を知り、将来の予測をはかる。又、レジャーという大枠の中における観光の位置づけもはかっていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎ゼミナールⅡ	1年次において「読む」「聞く」「書く」を中心に学んできたが、本科目ではこれらを発展させ「発表する」力を養成する。発表するにはレジュメの作り方、発表の仕方、器具・機械の用い方等もあわせて学ぶ。さらには発表に対して意見を述べる態度も養う。これは3年次から始まる専門ゼミにむけてのスムーズな移行を表すものであり、また、地域振興、宿泊産業、農業ビジネス、旅行産業、語学など専門ゼミの説明等を受け、各自が受講に際しての検討を行う。	隔週
	コンピュータリテラシー応用Ⅰ	現代の社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められる。情報リテラシーは現代社会における必須能力である。情報リテラシーの大きな柱の一つである情報活用能力は、情報の探索・整理・発信を行うためのコンピュータの利用やプレゼンテーションに関する能力である。コンピュータリテラシー応用Ⅰでは、コンピュータリテラシー基礎Ⅰ・Ⅱで修得した知識を発展させて、表計算ソフトの活用方法やデータの分析方法、ビジネス文書の作成方法、情報処理の基礎的な素養などを演習形式で学ぶ。	
	コンピュータリテラシー応用Ⅱ	現代の社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められる。情報リテラシーは現代社会における必須能力である。情報リテラシーの大きな柱の一つである情報活用能力は、情報の探索・整理・発信を行うためのコンピュータの利用やプレゼンテーションに関する能力である。コンピュータリテラシー応用Ⅱでは、ビジネス文書の作成方法、プレゼンテーションソフトによるスライドの作成方法、プレゼンテーションの実施方法、情報処理の基礎的な素養などを演習形式で学ぶ。	
	オーラルイングリッシュⅠ	主に、英語圏への旅行に関する英語文献を読みながら、語彙力増強と会話力のアップに力をいれる。さまざまな場面で交わされる会話を理解し、リピート練習を繰り返す中で応用力をつける。英語のアナウンスや、スピーチなどを聞いて、その内容が理解できるようにする。英語独特のイントネーション、リズムを身につけられるように、英語の歌や映画のセリフなども利用しつつ、スピーキングとリスニング能力の向上を目指す。	
	オーラルイングリッシュⅡ	主に、英語圏への旅行に関する映像を観ながら、リスニング力とスピーキング力の向上に重点を置く。語彙力・表現力を身につけるため、教科書の内容を理解し、ターゲット文を覚え、ロールプレイング・オリジナル会話の発表を行う。正しい発音とイントネーションを身につけるため適宜、英語の歌や映画のセリフなども利用する。さまざまな場面で活用できる、実践的なオーラルコミュニケーション能力を身につける。	
	英会話Ⅲ	コミュニケーション能力をレベルアップすることが一番の目標である。文法の基礎を身につけるとともに、自然で流暢な英語を使えるように、練習を繰り返す。そのために、毎回単語テストをすることで、使える語彙を身につける。身近なことから、世界で起きているニュースまで、現代社会のさまざまなトピックについて、正しい文法で自分の意見を述べられるようにする。そのために、英字新聞や、英語雑誌の記事も活用する。	
	英会話Ⅳ	英会話Ⅲで身につけた、文法力、時事問題に関する知識を生かし、さらに自然で、流暢に英語を使えるよう、ロールプレイやグループディスカッションを行なう。社会活動や研究活動を行う上で必要とされる英語の高度なコミュニケーション・スキルを身につけ、グローバル化が進む社会の中で積極的に情報を発信できるようにする。また、海外留学できるレベルまで英語力を高めるために、TOEFLの問題にも取り組む。	
	リーディングⅡ	リーディングⅠで身につけた基礎力をもとに、さらに高度な語彙力と読解力を養い、それによって英語についての知識を深め、異なる文化や考え方に関する視野を広げることを目的とする。そのために、最新の英文記事をインターネットで速読・精読・多読する読解練習を行なう。英語の流れの通りに、速く正確に読み取る技術を身につけ、さらに、内容に関して自分の意見をまとめる力をつける。また幅広い語彙を身につけるため、無料で読むことのできる英文名作にも触れる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ライティングⅡ	ライティングⅠで身につけた基礎力を元に、ある程度まとまったエッセイが書けるようにする。大学生活や社会問題について、自分の意見をわかりやすく、正しい英語で表現する力を養うことを目標とする。学生のライティングを使って、共通してみられる文法の間違いについて確認することで、間違いを少なくしていく。説得力のある英文を書くためにパラグラフライティングについての、基本的知識を身につけ、論理的な文章を書けるようにする。	
	キャリアデザインⅡ	「キャリアデザインⅠ」においては基礎・基本を学んだが、本科目においては応用・実践編の位置づけになる。講義は担当教員にとどまらず、他学部上級生や外部講師を招聘して多様な内容を展開する。就職活動等の成果につなげる能力をも養成する。そのためには、テキストによる講義の他に履歴書・エントリーシートについての基本的な知識を得、SPIや職業適性検査(R-CAP)の受検・確認等を行う。また、学内合同企業説明会や各種の外部セミナー等にあたっての態度なども合わせて学んでいき、個々の自己実現が叶うよう進める。教員はオムニバス方式であるが原則全員出席である。なぜなら、それぞれのキャリア(進路等)に関しての質問等その場でアドバイスできるからであり、また、個々の状況を把握できるからである。 (オムニバス方式/全15回) (9 高橋修一郎/3回) ①ガイダンス②業界・企業を知る③県内企業の特徴と今後 (4 出口高靖/3回) ④SPI対策能力模試1回目⑤「作文・小論文に強くなるための新聞活用」(外部講師招聘)⑥就職スタートアップ講座(外部講師招聘) (8 大宮誠/3回) ⑦職業適性検査(R-CAP)⑧SPI対策模試2回目⑨先輩内定者の体験談 (5 小畑博正/3回) ⑩卒業生の職場・就業報告⑪職業適性検査(R-CAP)解説セミナー(外部講師招聘)⑫業種・職種の解説及び情報サイトの活用 (11 滝沢憲一/3回) ⑬履歴書・エントリーシートの基本⑭就職活動と社会情勢⑮まとめ	オムニバス方式
	観光英語Ⅴ	観光英語Ⅳまでの知識を基に、旅行・ホテル・航空など、観光産業において、使われる実践的な英語を習得することを目指す。具体的には、観光業務に必要な会話表現や、観光業における専門用語(英語)の修得、旅行全般知識や海外習慣の理解に必要な英語力を身につけることを目的とする。英語コミュニケーション力を向上させると同時に英語の文献を通して異文化についても深い理解と知識を身につける。	
	観光英語Ⅵ	観光英語Ⅴまでの知識を基に、旅行・ホテル・航空など、観光産業において、使われる実践的な英語を習得し、ロールプレイングで演習を行なう。具体的には、海外で日本人客を接遇し、英語で添乗業務ができたり、海外における風俗習慣や国際儀礼等の異文化を英語を介して理解、かつ紹介出来るようになることが目標である。そのために異文化についての理解と知識を身につける。観光英語検定2級合格を目指した試験対策も行なう。	
	観光経営Ⅲ	本科目では「観光経営Ⅱ」で学んだ知識の上において観光産業で重要視されているマーケティングを軸に観光経営を学習する。現代において観光に対する個人のニーズは多様化しており、それらに対して的確な対応と戦略を練り上げていかねばならない。すなわち顧客の満足度を最大化させ、企業経営及び地域の活性化を図らねばならない。授業においては観光地やリゾート、旅行業、ホテル業、輸送業、飲食業を中心に展開していくが、これのみに拘らず最近注目されている農業、あるいは製造業等においても事例を挙げながら説明していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門応用科目	オーラルイングリッシュⅢ	この科目は英語でのペアワークや実用的な英語を聞き取れたり話せたりするようにするための、参加型授業である。ペアワークやグループワークを通して、積極的に英語を話し、発表する。テキストとワークブックを使い英語の四技能を磨く。英語で、簡単な社会問題についてディスカッションできるレベルに到達することを目標とする。また表現力アップを目指し語彙の増強にも重点を置く。自信を持って英語が話せるように発音矯正も行なう。	
	オーラルイングリッシュⅣ	話題性のある英語ニュースを深く理解することで、英語力と時事問題に関する知識を身につけ、その知識を生かして、グローバルイシューについて、英語でディスカッションを行える力を磨く。また、論理的に思考する力を伸ばすために、英語によるディベートも行なう。この科目では、実践的なスピーキング能力を身につけるとともに、実社会で役立つ、高度なレベルの英語を読み取る力と聞き取る力を身につける。	
	英会話Ⅴ	中級者を対象とする。特にリスニング能力の養成を主な目的とする。英語の一字一句すべてを聞き取ろうとするのではなく、必要な情報に的を絞って聞く練習を重ねる。読めないものは聞き取ることができない、という原則のもと、リーディングも行なう。また、英語特有の音変化についての理解を深めることで、ナチュラルスピードの英語の聞き取りを行なう。徐々に聞き取る英文のレベルを上げながら、少しずつリスニング力を伸ばしていく。	
	英会話Ⅵ	中級・上級者を対象とする。オーセンティックな教材を用い、重要な情報を聞き取れるようにする。また、その教材の音読を繰り返し、正しいアクセント・発音を体で覚える。また、教材にある表現や語彙のストックを増やすことで、表現したいことを即座に話すことができるようなトレーニングを行なう。また、英語ニュースの音読や、ディクテーション、リピーティングなどを繰り返すことで、洗練された発音とアクセントを身につける。	
	英語特論Ⅰ	幅広い教養をもった、国際的に活躍できる人材育成のために、英語論文を読んだり書いたりするための基礎的な英語表現を身につける。学術的内容・場面で使用される英語の特徴を学び、英語学術論文を読めること、書けることを目標とする。一つの手段としてTOEICテストで高得点を獲得できるよう、試験対策を行なう。TOEICの問題形式に慣れ、実際に問題を解き、理解をすすめるながら、ビジネスで、多用されている語彙、表現を活用できるようにする。	
	英語特論Ⅱ	幅広い教養をもった、国際的に活躍できる人材育成のために、英語論文を読んだり書いたりするための基礎的な英語表現を身につける。学術的内容・場面で使用される英語の特徴を学び、英語学術論文を読めること、書けること、卒業論文の英語での書き方の習得を目標とする。英語特論Ⅱでも、一つの学習手段としてTOEIC試験対策を取り入れる。実社会で生かすことのできる実践的な英語運用能力を高めることを目指す。	
	中国語特論	中国語の基本文法を理解すると同時に発音を練習し、初歩的なコミュニケーションができるようになることが目標である。中国人とコミュニケーションするために、基本的な表現をくり返し練習して覚える。観光にも役立つよう、中国の観光名所での場面における会話を教材とする。毎回、発音練習、聞き取り練習を行ない、ロールプレイングで練習の成果を発表する。文法を習得するために、基本的例文を書いて覚える。	
	韓国語特論	受講者は、基本的な韓国語の知識を有すものに限る。会話形式の学習と、ニュース記事を読む学習を通して「読む、書く、話す、聴く」を総合的に学習することを目的とし、その目的に即したワークブックを生かし授業を進める。また、ハングルを通じて、朝鮮半島を知り相互理解を深めることも目的とする。変格活用を含むさまざまな用言の活用など、応用レベルの文法事項を習得し、応用を試み自己表現の幅を広げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ロシア語特論	ロシア語中級レベル以上の学生を対象とする。雑誌、記事等をテキストとして使用し、ロシアの人の生活や文化について学ぶ。授業では、最新のトピックを毎回テーマとして取り上げ、学生同士で意見交換する。授業を通じてロシアの文化、政治、生活、芸術に触れることで、ロシア言語、ロシア人に対する理解も深める。辞書さえあれば、小説でも新聞記事でもある程度内容が正確にわかる、というレベルに到達することを目標とする。	
	財務会計Ⅰ	本科目では、簿記会計Ⅰ・Ⅱにより得た知識を発展させ、各種財務諸表すなわち貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書の構造と、そのベースとなる会計原則について学習し、これらを作成または理解する方法について学習していく。特に、時事的な会計事例を随時織り交ぜることにより、会計原則の変更が社会に及ぼす影響の大きさを理解して欲しい。また、受講生が、財務諸表の作成とその内容を理解する基礎的な力を養成することを目標とする。	
	財務会計Ⅱ	本科目では、財務会計Ⅰで学んだ基礎知識（会計原則、財務諸表、資産会計、持分会計など）を基本に、損益会計、法人税法会計、税効果会計、個人企業の会計などについて学習する。また、財務諸表分析の基礎知識を身につけ、企業の成長性と収益性、安全性と生産性などの経営分析を行う。さらに、リース会計、退職給付とストックオプション、企業結合についてのケーススタディを行う。 また、財務会計Ⅰ同様、受講生が、財務諸表の作成とその内容を理解する基礎的な力を養成することを目標とする。	
	ビジネス法Ⅰ	本科目は、受講者が社会に出るにあたって、必要なビジネス法務の基礎を学ぶことを目的とする。ビジネス法務とは様々な法律の組み合わせで成り立っている。法律に関する講義を受講したことがない者がいることを前提に、条文の読み方から始めて、ビジネスで直面する法律問題について場面ごとに講義する。知識の理解の定着のために、ビジネス実務法務検定3級の問題にも随時触れていくつもりである。 また、受講者が、ビジネス実務法務検定3級水準の知識を習得することを目標とする。	
	ビジネス法Ⅱ	本科目では、「ビジネス法Ⅰ」で習得した知識を基礎として、ビジネスで直面する法律問題についてケースを交えながら解説する。具体的には、債権の回収、会社と従業員との関係に関する法律、会社法と内部統制、消費者保護に関する法律、金融に関する法律、知的財産法などについて学ぶ。さらに、小テストを数回実施し、受講者のビジネス法に関する理解を深めていく。 また、「ビジネス法Ⅰ」と同様に、受講者が、ビジネス実務法務検定3級水準の知識を習得することを目標とする。	
	海外英語実習	アメリカ文化および英語に興味を抱き、英語研修やホームステイ体験を通して国際的視野を広めたいと希望する学生のために研修プログラムである。文化や伝統、生活習慣の異なる人々との交流を深めながら、英語しか使えない環境において、集中的に英語学習することにより実践的な英語コミュニケーション能力を向上させる。オリエンテーションや異文化理解・英語学習の授業を行なうとともに、ホストファミリー、研修先宛の令状の書き方を学ぶ。	集中
	販売と経営Ⅰ	本科目は、販売士検定3級の資格取得を目指したものである。販売士検定3級の資格取得に必要な基礎知識の習得、及び問題練習を行い、出題傾向を把握する。特に、販売士検定3級の資格取得に必要な5科目(小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理)の基礎知識の解説及び問題練習・解説を行う。 また、受講生が、販売士検定3級の合格水準の知識を身に付けることができるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 選択 科目	販売と経営Ⅱ	<p>本科目は、「販売と経営Ⅰ」と同様、販売士検定3級の資格取得を目指したものである。「販売と経営Ⅰ」で学んだ小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理の計5科目の基礎知識を活かし、特に問題練習やその解説を中心に行う。さらに、販売士検定3級の知識到達度を確かめるため、模擬試験なども実施する。</p> <p>また、受講生が、販売士検定3級の合格水準の知識を身に付けることができるようになることを目標とする。</p>	
	原価計算論Ⅰ	<p>製造企業では様々な経営資源（原材料、労働力、設備など）を生産活動に投入し、製品を製造する。ここで生産活動を通じて消費される経済的資源の消費額のことを「原価」といい、原価計算とはこの原価を製品等の生産物に関わらせて把握する計算システムのことである。本科目は、原価計算に関する基礎理論を体系的に学習するとともに、コストマネジメントの考え方を理解する。</p> <p>また、受講生が、企業実務に関する時事的な話題をコストという観点から理解できるようになることを目標とする。</p>	
	原価計算論Ⅱ	<p>本科目では、原価計算論Ⅰで習得した知識を基礎として、さらに、原価計算に関する基礎理論を体系的に学習するとともに、コストマネジメントの考え方を理解する。具体的には、標準原価計算、直接原価計算と利益管理、勝等基準原価計算（ABC）、ABCとABM、原価企画などについて学習する。さらに、原価計算に関する練習問題・解説も実施する。</p> <p>また、原価計算論Ⅰ同様に、受講生が、企業実務に関する時事的な話題をコストという観点から理解できるようになることを目標とする。</p>	
	経営トップセミナー	<p>景気悪化、雇用問題、消費低迷など企業環境が厳しさを増す中、企業のトップは今、どのような考え方をし、生き抜こうとしているのか。自社の歴史から今後に向けての戦略を語っていただく。具体的には、新潟を含め全国の有力企業のトップを招聘して経営者に求められるもの、製品開発の裏話、社会への貢献、人材育成術など等、教科書では得ることのできない実践的授業と言える。なお、本科目担当の教員は本セミナー講師の招聘及び学生のレポート評価ならびに授業の進行、事前、中間、事後指導等にあたる。</p>	
	マーケティングⅠ	<p>マーケティングは、製造業が、流通機能までをコントロールする必要から発生した実践的商学である。本科目では、マーケティング概念、マーケティング諸機能、マーケティング発生の契機、業務的マーケティングと戦略的マーケティング、市場プロファイル分析と市場定義、市場セグメンテーション、SWOT分析、小売業マーケティングやeマーケティングについて学ぶ。</p> <p>また、受講生が、マーケティングを体系的に学ぶことを通じて、マーケティングに関心を持ち、企業のマーケティングについて問題意識を持てるようになることを目標とする。</p>	
	マーケティングⅡ	<p>企業は、供給過多の状況下において、売れる製品・仕組みづくりや需要創造を戦略的に実施していく必要があり、マーケティング戦略の成否が、企業経営の成否を決めるといっても過言ではない。</p> <p>本科目では、マーケティング戦略に焦点をあて、マーケティング・ミックスを構成する製品・価格・経路・販売促進の各戦略について解説する。また、サービス、地域、医療、商業等のマーケティングにも触れ、マーケティング戦略の理論と実践を紐解く。また、受講生が、マーケティング戦略上の課題を指摘し、解決策を模索できることを目標とする。</p>	
	経営戦略論Ⅰ	<p>経営戦略とは、ダイナミックに変化する企業環境において、自社の進むべき方向を明確に定めることである。企業は、市場競争で生き残るため、経営戦略に基づき、競争優位性を築き、他社との差別化を図っていく必要がある。</p> <p>本科目では、「戦略」の本質を理解するとともにケースを交えながら「経営戦略」の基本である経営環境、事業領域、企業戦略、経営組織、リーダーシップなどについて学ぶ。また、経営戦略の基礎的考え方、及び様々な事例を通じて、受講者が企業戦略のあり方が理解できることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	経営戦略論Ⅱ	<p>本科目では、経営戦略論Ⅰで学んだ「戦略」の本質的な考え方、手法を基礎として、ベンチャー企業やグローバル企業や地域企業などの多様な企業形態に焦点を当て、多面的に「経営戦略」を捉えていくことで、最新の戦略論を紐解く。また、企業は、利益追求のみならず、社会貢献や社会的責任を果たすことを企業戦略として取り組む「戦略的社会性」についても焦点をあてる。このような学びを通じ、受講者が、多様化する現代企業の経営戦略課題を指摘し、その解決策を模索できることを目標とする。</p>	
	財務管理論Ⅰ	<p>会社は、一般的に、自己資金だけでは発展的な経営活動が十分には行えない。特に中小企業は、どうしても外部からの資金調達とその運用が必要とされるので、それら資金管理全般に関する基礎知識を学習する。本科目では、理論的な部分を具体例で説明するとともに、演習形式で実際に作業をしながら学習の効果を上げます。更に応用問題としてケース・スタディを解いて、理解の確認を行う。</p> <p>また、受講者が、企業の資金は経営を左右する要であることが理解できることを目標とする。</p>	
	財務管理論Ⅱ	<p>本科目は、「財務管理論Ⅰ」で学習した知識を基礎として、資金調達と運用の手法についてさらに詳しく解説する。具体的には、設備投資と採算の見方、会計的利益率法、経営計画の進め方、予想貸借対照表と財務指標の作成法、資金コストの見方、企業評価の進め方などについて解説する。さらに、中小企業の金融システムの特徴、マネープランと運用、金融商品の特徴についても触れていきたい。</p> <p>また、「財務管理論Ⅰ」と同様に、受講者が、企業の資金は経営を左右する要であることが理解できることを目標とする。</p>	
	国際経済論	<p>21世紀初頭の国際経済社会全体と主要な地域の経済について基礎的な知識を得て、「グローバル人材」として活躍するための必要な基盤として本科目がある。具体的には世界経済の概要、現状と動向、そして、世界経済の動きを左右する要因について講義する。また、世界貿易や海外投資についても詳しく取り上げる。なお、米国と欧州を中心としながらも最近の世界経済における地位の高まりつつある新興国の経済についても論じ、国際経済を分析できるノウハウを教授する。</p>	
	日本経済論	<p>近年の日本経済は変動が激しい。戦後日本を苦しめたインフレが今日では逆にデフレとなった。また、最近ではついに日本経済は貿易赤字に陥ってしまった。外に目を転じて先進国の後退と新興国の経済成長などもある。こうしたことを理解して変化をよき理解していくことを目指したい。また、20代の投票率の低さが社会問題への関心の低さのあらわれでもあるとの指摘もある。受講者には自ら考える力を養って欲しい。</p> <p>また、受講生が、今日の日本経済の問題を理解し、自分の意見を持てるようになることを目標とする。</p>	
	経営分析論Ⅰ	<p>会社(株式会社)では、毎年、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成しており、財務諸表を分析することで、その会社の経営状態の把握が可能になる。実際に融資を行う金融機関や、投資家は財務諸表を分析し、その会社の実態を把握している。</p> <p>本科目では、財務諸表の見方や分析方法を学習し、財務諸表から会社の実態や問題点を抽出する能力を養うことを目的とする。特に、理論を中心に、安全性や収益性の分析や損益分岐点分析などを行い、経営分析の基礎を養う。</p>	
	経営分析論Ⅱ	<p>本科目では、経営分析論Ⅰと同様に、財務諸表の見方や分析方法を学習し、財務諸表から会社の実態や問題点を抽出する能力を養うことを目的とする。経営分析論Ⅰで学んだ経営分析に関する理論(安全性分析、収益性分析、損益分岐分析など)に基づいて、各企業の財務諸表を用いて経営分析の実践を行う。具体的には、製造業、小売業、サービス業の各業界の企業における経営指標の捉え方、比率分析、損益分岐分析、キャッシュフロー分析などをケースを使って実際に行ってみる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アジアビジネス論Ⅰ	本科目はアジア全体とその主要な各国の経済やビジネス環境について基礎的な知識を得るとともにその現象と最新の動きを把握することを到達目標としている。まずはアジアの概念とアジアの国々の多様性と共通点をさぐり、その上において、高度経済成長とその要因をつきとめ、アジアの企業モデルとビジネスカルチャーについて論及する。また、アジアの企業モデルの変化や現在のアジア企業のあり方をアジアの中の日本と日本企業の役割と方向性についても展望する。	
	アジアビジネス論Ⅱ	本科目はアジアビジネス論Ⅰを修得した上での履修が望ましい。また、本科目では主要な国や地域についてのより踏み込んだ経済、企業、ビジネス環境とビジネス慣行を詳しくとりあげる。具体的には経済超大国の中国についての経済動向やビジネス環境、展望や課題あるいは韓国経済やビジネス環境について探っていく。そのほかにおいてはアジアNIEsについても詳しくとりあげ、近年注目されている第二の新興経済超大国インドの経済動向やビジネス環境にも論及していく。	
	販売と経営Ⅲ	本科目は、販売士検定2級の資格取得を目指したものである。販売士検定2級の資格取得に必要な基礎知識の習得、及び問題練習を行い、出題傾向を把握する。特に、販売士検定2級の資格取得に必要な5科目(小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理)の基礎知識の解説及び問題練習・解説を行う。 また、受講生が、販売士検定2級の合格水準の知識を身に付けることができるようになることを目標とする。	
	販売と経営Ⅳ	本科目は、「販売と経営Ⅲ」と同様、販売士検定2級の資格取得を目指したものである。「販売と経営Ⅲ」で学んだ小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理の計5科目の基礎知識を活かし、特に問題練習やその解説を中心に行う。さらに、販売士検定2級の知識到達度を確かめるため、模擬試験なども実施する。 また、受講生が、販売士検定2級の合格水準の知識を身に付けることができるようになることを目標とする。	
	インターンシップ	本科目は企業や自治体、あるいは団体等において一定期間の就業体験を行うものであり、自己の職業適性や将来設計を考える端緒とする。また、自分の専門に関わる仕事の実際を実社会で広く学習することにより大学では学べない社会人としての必要なマナーや常識を身に付け、今後の学習の課題を把握することで就業意識の向上に結びつける。実施に当たっては各授業科目への出席状況等を勘案する。当然アルバイトとは異なる姿勢で就業を体験し、将来に備えなければならない。	集中
	地域とビジネスⅠ	地域には歴史があり、それぞれが持つ特性がある。その特性とはどういうことなのか。地域の経済的発展と活性化につながるビジネスをまず探り、その基礎的な位置づけとして展開していく。地域においてはその特性を活かした地域密着型企業をはじめとして、協同組合、非営利組織などが存在し、その活動を行っている。本科目は、こうしたビジネスの現状や課題について問題意識をもち、理解を深めていく。なお、構造的理解力を養いながら事例を取り入れわかりやすく講義をしていく。	
	地域とビジネスⅡ	本科目は「地域ビジネスⅠ」を基として発展的な授業を意図している。地域におけるビジネスの事例を紹介し、講義の肉付けを図る。また、地域ビジネスのイノベーションとは何かを考え、地域の特性を活かし、事業の創生をはかるにはどうしたらよいか、政策としての地域イノベーションをも体系的に学ぶ。なお、授業が一方通行にならないよう、それぞれが意見を出しあい、授業を通して構造的な理解力、論理的思考力、政策提案能力を養成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
レジャー・まちづくりコース	まちづくり論	本科目におけるまちづくりとはハード面での都市計画に基づくまちづくりは主流ではない。現在、地方においては少子高齢化の進展が著しく、地域の過疎化の進行もまた、深刻な問題となっている。さらには、市街地においても空洞化現象がみられ、社会問題化している現実がある。まちづくりとは何か、地域づくりとはなにか、そして、地域自らが考え行動し、一体となって地域の特性を生かし活性化活動に取り組むにはどうしたらよいか。各地における成功あるいは失敗の事例を取り上げながら観光と絡めながら授業を展開していく。	
	まちづくり実習 I	前期で学んだ「まちづくり論」の知識をもとに実習を展開していく。この授業における実習を始める前には狙いとする地域の資料による調査からはじめる。その後において現地調査に入ることとなる。地域には観光地や観光施設、温泉、自然公園、スキー場など観光としての資源が多くあるが、どこに問題があるか、その上において地域の魅力を一段と高める施策や方法を考える。また、調査結果を基にそれぞれが発表を行うこととする。なお、この授業では地域を県内にしぼり地域特有な藁細工等における簡素で基礎的な実用品作りを含め実習を行っていく。	集中
	レジャー&アウトドア実習 I	夏季及び冬季休業中に学外において宿泊を伴う集中授業として実施する。夏季はオリエンテーリング、野外炊飯、パラグライダー、ラフティング、キャニオニング等のマウンテンスポーツ、リバースポーツを、冬季はスキー、スノーボードを学習する。それぞれの種目に関する知識や技能の習得に加えて、将来、観光関連産業に従事する専門的能力を養う観点から、実習地の歴史と現状や地域特性、宿泊施設等の現状や他の観光資源の現状等について事前に調査してレポートを作成する等の課題学習によって理解するとともに、実習終了後には体験を踏まえて新たなスポーツレジャーサービスの提案書等を作成することを通じて企画力を養っていく。	集中
アグリ・フードビジネスコース	農業と観光	本科目においては農業の基礎知識をまず学ぶ。その上において農業と観光の関わりを探る。農業県である本県においては観光の6次産業化はもとより農業の観光化は発展途上である。新潟県においては地域によりその地形、気候から条件もまちまちであり、地域性を活かした農業が営まれている。“農業で集客できるのか”をキーワードに授業を進めていく。これまでは、観光果樹園、体験型農業ツアー、田圃アート、ひまわり畑による集客、農家レストラン等々様々な形態ができてきている。事例を紹介しながら新たな形態による農業観光のヒントをつかむ態度を養っていく。	
	フードビジネス論	フードビジネスというと外食産業と同一視されがちだが、フードビジネスは食に関するビジネス全てを指す。本科目は食料の生産から加工、流通、販売、消費にいたるまで食に関係するビジネスに対して理解を深める。フードそのものは食のグローバル化により、さらには消費の多様化により大きな変遷をみせている。これらから食の消費者行動の変化、食の外部化そして、わが国の農業との関わり、食生活と食品、外食産業、注目されている和食についてもマーケティング的視点から今後を捉える。	
	アグリ・フード実習 I	本科目においては地域における農業、食品に対し理解を深め行動する態度を養う。また、栽培、加工、販売の実習を通してアグリ・フードに対して学んだ知識の裏づけをはかる。具体的には稲作、果樹、野菜を中心に実習を行う。実習先については農家、農園、食品加工会社、農協、スーパー、輸送会社あるいは輸出入を手がける商社を対象としている。また、地域の活性化や個々のアグリ・フードのビジネスとしてマーケティングあるいはマネジメントの視点からの考察を行う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	農業ビジネス論Ⅰ	農業は商売（ビジネス）する経営体として活動が可能であり、本格的なビジネス化に向けて、新しい視点から農業を考え取り組んでいくことが重要である。農業ビジネスの展開のためには農業生産を基盤として農産物の加工、流通、販売、農村環境の保全等の機能とともに、マーケティング力を重要視し企業的経営を志向する必要がある。本科目においては農業主導型、企業主導型、農業と企業連携型などにより、農業・農村の多様な資源を活用した取り組みによるビジネス展開と地域活性化の基礎と実践の理解をはかる。また、農業とビジネスに対する問題意識の確立と今後における対応取り組みの醸成を目指す。	
	農業ビジネス論Ⅱ	「農業ビジネス論Ⅰ」から継続した形で授業を展開する。衰退産業と捉えられがちな農業をビジネスの視点から十分に発展性があり、魅力のある成長産業であることを再認識する。また、アグリビジネス成長のその背景を農業政策の枠を絡め授業を展開する。本科目はまた、農業生産法人、集落営農、協業経営、株式会社、さらには飲食・サービス機能を中心とした事例を多く取り入れ実践的に学習する。このことにより、より積極的な態度と問題意識等を醸成する。	
コース専門基本科目	異文化コミュニケーション	文化的背景を異にする人々と共存・共生していくために、異文化理解能力と言語コミュニケーション能力の向上を図る。コミュニケーションの理論を概観し、多文化社会を生きる者のコミュニケーションのあり方を身近な誤解、失敗、すれ違いのケースを題材に、多様な角度から掘り下げて考える。異質の他者との出会いを楽しむ。広い視野と豊かな人間性を身につけ、違いを受容し、互いに尊重し合える人材の育成を目的とする。	
	通訳ガイド入門	通訳ガイド試験対策の教材に取り組みながら、日本の歴史・文化について書かれた英文を読むことで、それらに関する理解を深めるとともに、英語読解力を高める。日本の歴史・文化および観光名所などを英語で外国人に紹介する力を身につける。また、歴史を理解するために必要な背景についての講義を通して、英語力とともに、幅広い知識を身につける。最終的に日本のさまざまな魅力を英語で世界に発信できるようになることが目標である。	
	通訳ガイド演習Ⅰ	通訳ガイド試験対策の教材に取り組みながら、日本の歴史・文化とともに、日本の地形や地理についての知識を英語で取り入れる。通訳ガイド試験の演習を行ないつつ、二次試験の面接対策も行なう。歴史や地理の知識はもちろんのこと、さまざまな日本の現代社会の問題や、独特の現代文化についても、英語で説明できるようトレーニングを重ねる。実際に英語の通訳ガイドとして活躍するプロフェッショナルの講義も予定している。	
	旅行ビジネス論	日本の旅行産業の現状や取り巻く環境の変化を考察し、また、日本の観光のインフラの課題、あるいはスポーツツーリズム、ヘルスツーリズムなどのニューツーリズムの実態把握をおこなう。なお、近年、注目されているインターネットと旅行業の関係を学び、インバウンド及びアウトバウンド旅行ビジネス及び交通との関わり、さらには宿泊産業との関連、それらに伴う売れる商品の作り方など幅広く学習する。旅行ビジネス全般をハード、ソフト両面から理解し、旅行業界への問題意識や進路への動機付けをはかる。	
	旅行業法	「旅行業法」は旅行業者を規制する法律である。旅行業を営む者についての登録制度を実施、あわせて適正な業務の運営の確保や団体の適正な活動を促進することにより、取引の維持や旅行の安全確保や旅行者利便を図ることを目的としている。本科目は旅行業法を中心に旅行業者を取り巻く環境すなわち、関連する法律あるいは消費者（顧客）、旅館・ホテル、交通産業、また、国際観光情勢なども学ぶ。国内旅行業務取扱管理者試験にも対応できる知識と能力を養成する。	
英語・ツーリズムコース			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光産業実習 I	これまで講義を通して習得した旅行及び観光に関する知識を基に実習旅行を通じ体験を通じて修学する。具体的には国内旅行業務の実際と企画商品の実態把握ならびに現地視察による。本科目はその性質上一定期間の集中をもって行う。事前の指導、旅行期間中及び終了後における事後指導にも重点を置く。現地における現状を観察・分析し口頭や文書で自己の見解を述べる能力の養成と観光産業全体に対する経営の現場理解を深めることも本科目の狙いでもある。	集中
	旅行実務演習	本科目は、これまで「旅行ビジネス論」、「旅行業法」などの科目を学んだ上において履修する。すなわち、旅行業界で活躍したい者を第一義としている。旅行業務取扱管理者は旅行業務を取り扱う営業所において旅行業法で定められている。当業界においてはその職務上から国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者が重要視とされている。当該の国家試験の受験が必須となるが、試験問題等の演習を通して試験合格のみならず旅行に関する総合的な知識と理解のまとめをはかる。	
ホテル・ホスピタリティコース	宿泊産業論	宿泊産業はホテルをはじめとして、旅館、ペンション、民宿、民泊などがあり観光産業の中で重要な位置を占めている。本科目では宿泊産業の歴史を学び、社会や経済の変化の中で宿泊産業の動向と今後における成長と発展を探る。国内外の宿泊産業に対する基礎的な知識すなわち、宿泊産業の法的知識や特性、営業基盤及びマーケティング、求められるホスピタリティについても講義していく。グローバルな宿泊産業の中で活躍できる人材の養成をはかる。	
	ホテル経営論	ホテルは、その規模や形態は様々であり、経営コンセプトも異なるが本科目においてはホテル産業について様々な角度から広範な知識を修得する。ホテル産業に従事し将来、管理者として活躍できる人材養成を念頭においている。ホテルの各機能や役割の知識はもとより、客単価や原価率、稼働率等計数管理にも重点をおき学習する。また、ホテルのマーケティング活動に関する知識を学び、ホテル経営の有効活用から講義形式ばかりでなく、事例研究からグループ活動も重視し学生自身が積極的に参加し、問題意識をもって積極的に取り組む姿勢を身に付けさせる。	
	旅行ビジネス論	日本の旅行産業の現状や取り巻く環境の変化を考察し、また、日本の観光のインフラの課題あるいはスポーツツーリズム、ヘルスツーリズムなどのニューツーリズムの実態把握をおこなう。なお、近年、注目されているインターネットと旅行業の関係を学び、インバウンド及びアウトバウンド旅行ビジネス及び交通との関わり、さらには宿泊産業との関連、それらに伴う売れる商品の作り方など幅広く学習する。旅行ビジネス全般をハード、ソフト両面から理解し、旅行業界への問題意識や進路への動機付けをはかる。	
	セレモニー産業論	セレモニーはブライダルや葬儀に限定できるものではなく、各種の式事、祝典、祭り等を指す。本科目においてはビジネスとしてのセレモニーを追求する。諸外国のセレモニーの歴史から紐解き、宗教との関わりや文化としてセレモニーはビジネスあるいは産業として確立しているのか、歴史とともに探求する。国内においては、セレモニー産業はビジネスとして激しい競争を展開している。なお、わが国の歴史からセレモニーの誕生と現状と課題、今後における動向を探り理解を深める。	
	宿泊関連産業実習 I	ホテル・旅館等の宿泊先における実習である。宿泊産業の学習をした上において実際の業務を体験することでホスピタリティの再認識、接客や宿泊産業の全体構造の理解などを学ぶ。また、部門別における作業及び手順なども技術として習得する。本科目その性質上、一定期間集中して行う。事前の指導や実習終了後における事後指導を整理し、報告する。報告のプレゼンテーションにおいては自己の感想はもとより、見解を述べるなど、問題意識と働く心構えの醸成をはかる。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
レジャー・まちづくりコース	専門ゼミナールⅠ	2年次生から興味・関心あるいは自己の将来を考え、専門科目を学んだ後のゼミナールであり、2年次において事前に指導教員を決めておくことが必要である。通年を通して行う科目であり少人数で実施する。それぞれの教員の専門性を直に享受でき、テーマに沿った授業形態が行われる。本科目は科目の中でも核となり学生にも大きな影響を与えるものといえる。文献などの当該の専門の基本的な知識の修得に努めテーマごとにグループあるいは個人においてディスカッション等を通じ論理的な能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。なお、そのほかテーマによってはフィールドワークも重視する。	
	専門ゼミナールⅡ	3年次の「専門ゼミナールⅠ」から継続して同じ教員から指導を受ける。よって3年次からの問題点や関心を抱いていたテーマについて更にふかめた研究をすすめる。なお、研究結果は整理し報告を行う。その上で質疑応答を行い、これを通じて学生の自主性を促進し、学生間で討論や分析できる力を養う。また、学生自身が導いた課題に加え、教員からも研究課題を与え、研究の深化に結びつける。なお、前年度につづきフィールドワーク等をも推し進め、実践的能力と理論の肉付けとその実証を行う。	
	環境と自然エネルギー	風力や地熱、水力、波力、太陽光など自然エネルギーは利用してもその量が減少しないという特長をもつ。3.11福島原発事故から今、自然エネルギーが脚光をあびているが、環境に与える影響はどうなのか。また、他において、その問題と課題はあるのかを探る。ことに自然豊かな地域においては、その持続可能な資源が豊富な場合が多い。なお、現在、大学の存在する地域においては小水力発電が設置されており、これら等を含め、現地における調査・視察を行い、地域環境とエネルギーとの調和を考える。	
	テーマパークとリゾート	本科目についてはディズニーリゾートやハウステンボス、USJ等をはじめとして全国大・中・小のテーマパークやリゾートについてビジネスの視点から考察する。このようなリゾートやテーマパークあるいは複合した施設はどのような考えから作られたのか。地域経済や地域の活性化への貢献という視点からテーマパークとリゾートについて講義をする。なお、求められる付加価値アップ、認知度アップに必要な方策に関する考え方を身に付けさせる。当然この授業については、実際に目で確かめ、確認することができる校外研修も重要な一つファクターと考え実施する。	
	地域とイベント	地域においては何百年の伝統を誇る祭りや行事がある。反対にビジネスや地域の活性化を目的とした比較的新しい祭りやイベントが存在する。ことに地方においてもスポーツに関わるイベントが近年、盛んになっている現状がある。祭りにおいてもイベントにおいても地域をいかに元気にするかということにつける。これら祭りやイベントを人、モノ、カネ、情報の面から考察する。地域において持続可能なイベントあるいは観光としての祭りはいかにあるべきかを探っていく。実際行われる祭りやイベントについても学生の積極的な参加を求める。	
	スキー産業論	わが国におけるスキーの発祥は1911年にはじまる。新潟県においては冬のレジャー、スポーツそして、観光として急速に発展してきた経緯がある。このスキー発祥から100年の間にスキー及びスキー場は産業として重要な位置を占めている。しかしながら2014年においては、1993年のピーク時の30%までに落ち込んでいる。今やスキー人口は減少の一途を辿り、スキー場、及びスキーに関する産業は衰退産業ともいわれている。この要因はいろいろ分析されているが、再生と発展にはどのような方法があるか、新たなニーズの掘り起こしを含め講義する。本科目はスキー場の事業特性の把握を出发点とし、地域の活性化と成長を探り提案するものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光と開発	<p>本科目においては観光開発の歴史から紐解き、観光開発は地域経済の活性化や雇用創出、他産業への波及効果が期待できる重要な分野であることを伝える。また、観光開発は国際的には海外の人を呼び込み、国内的には交流人口を増やすことである。新潟県内に眠るあるいは活かさきれていない観光資源の掘り起こしと活性化を探り提案をする。観光の開発は国の重要な政策であり、県内にも天然資源、有形・無形文化財等々数多くある。近年はスポーツやエコ、メディカルなど新たな観光形態がみられるが、事例等で具体例を学び、地域における関わりをも理解させ、問題意識を醸成させる。</p>	
	世界遺産論	<p>世界遺産制度は1972年ユネスコの主導でスタートし、現在2014年時点において1007件の文化遺産・自然遺産・複合遺産が登録されている。わが国においては18件の登録がなされている。世界遺産の登録はマスツーリズムの影響を直接にうけることになる。いわゆる登録のブランド化の影響である。本科目においては世界遺産の観光化の進展とその諸問題について検証し、国際的な相互理解や平和理念、世界遺産登録の条件など内外の個々の遺産を通して基礎から学ぶ。</p>	
	まちづくり実習Ⅱ	<p>2年後期の「まちづくり実習Ⅰ」から継続して本科目を実施する。2年次において実習をできなかった対象の地域においてのイベントや施設など現地調査実習を行う。現地においては、地域おこしの成功例ばかりでなく失敗例についてもその問題点を探る。まちづくりによって何が変わったか。今後さらにどうすればよいか。多くの人を呼び込み、地域の人が安心し、集い、生活できるそんな地域をつくるにはどんな課題や問題があるのか。どう行動すればよいのかをさぐる。また、校外実習の学びを通して問題意識を醸成する。なお、テーマによっては教室において外部講師を招聘して講義をうける。</p>	集中
	観光調査法	<p>本科目においては観光事業や観光地域における情報を収集し、それら进行处理できる実務的な能力を養うことを目的としている。具体的には観光地の入り込み数などの情報、観光客のニーズ、宿泊施設の個別情報、自然や気候など調査方法について学ぶ。なお、情報集についてはアンケート用紙の作成やインタビューについてもその知識と技能をパソコンを効果的活用を考える。また、各種観光報告書を検討・分析し、自らも報告書を作成できるまでの技能を身に付ける。</p>	
	レジャー&アウトドア実習Ⅱ	<p>夏季及び冬季休業中に学外において宿泊を伴う集中授業として実施する。夏季はオリエンテーリング、野外炊飯、パラグライダー、ラフティング、キャニオニング等のマウンテンスポーツ、リバースポーツを、冬季はスキー、スノーボードを学習する。それぞれの種目に関する知識や技能の習得に加えて、将来、観光関連産業に従事する専門的能力を高める観点から、実習地以外の事例も参考にして、新たなレジャースポーツツーリズムの観光プランや、アウトドアスポーツを通じた観光振興とまちづくりのアイデアを構想して企画書にまとめる等の課題学習を通じて事業創造力を養っていく。</p>	集中
	専門ゼミナールⅠ	<p>2年次生から興味・関心あるいは自己の将来を考え、専門科目を学んだ後のゼミナールであり、2年次において事前に指導教員を決めておくことが必要である。通年を通して行う科目であり少人数で実施する。それぞれの教員の専門性を直に享受できた、テーマに沿った授業形態が行われる。本科目は科目の中でも核となり学生にも大きな影響を与えるものといえる。文献などの当該の専門の基本的な知識の修得に努めテーマごとにグループあるいは個人においてディスカッション等を通じ論理的な能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。なお、そのほかテーマによってはフィールドワークも重視する。</p>	
	専門ゼミナールⅡ	<p>3年次の「専門ゼミナールⅠ」から継続して同じ教員から指導をうける。よって3年次からの問題点や関心を抱いていたテーマについて更にふかめた研究をすすめる。なお、研究結果は整理し報告を行う。その上で質疑応答を行い、これを通じて学生の自主性を促進し、学生間で討論や分析できる力を養う。また、学生自身が導いた課題に加え、教員からも研究課題を与え、研究の深化に結びつける。なお、前年度につづきフィールドワーク等をも推し進め、実践的能力と理論の肉付けとその実証を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
アグリ・フードビジネスコース	アグリビジネス起業論	本科目はこれまで学んだ農業やビジネスの知識を進展させ、より具体的に起業を念頭におきながら進めていく。現在、実際に行われているケースをあげながら地域や農村におけるその背景や事業方針、アイデア、行動原理、技術など地域資源を加味しながら起業が成立する条件を立証する。一般的には農業ビジネスの起業として、農業法人、農園、農産物加工、観光農園、近年では農家レストラン、農家民宿など様々な形態での起業の実態があるが、地域の特性や新たなニーズの掘り起こしを含め学んでいく。なお、授業の成果として事業計画書の作成を求める。	
	グリーンツーリズム特論	グリーンツーリズムは西欧諸国や日本の各地において地域活性化の有力な方策として取り組まれている。グリーンツーリズムとは農山漁村地域における景観や人々の暮らし及び生産活動に魅力を見だしそれを対象とした観光をいう。本科目では諸外国とわが国との比較をすることにより、現状理解を促進させ、実際に取り組むには、どのような考え方や方法があるのか、持続可能な方向性をさぐる。グリーンツーリズムに対しての基本的な知識はもとよりそれに対する問題意識の醸成をはかる。	
	農業政策論	農業ビジネスに携わる者においては、わが国の農業政策をまず、理解しなければならない。農業従事者の高齢化や耕作放棄地の拡大、減反廃止、さらには戸別所得補償の廃止などの課題が生じている。こうした中で農地の活用、担い手の育成、農村の持つ多面的維持・発揮などの改革案が打ち出されている。しかし、本科目は、国内ばかりでなくTPPをはじめ国際的な食糧・農業問題を俯瞰した上で農産物安全保障政策、農産物価格政策など国際的な視野を踏まえながら政策の本質を理解していく。	
	アグリ・フード実習Ⅱ	本科目は2年次の「アグリ・フード実習Ⅰ」で学んだことをベースに問題意識を持って授業に参加する。それぞれの将来を志向した分野において例えば果樹、野菜関連あるいは観光農園等において、実習を行う。実習前の事前学習はもとより事後の実習成果を報告会の形で行う。目的の達成はどうであったか。今後における自己の課題と問題点を把握し、次回の実習につなげる。なお、常にアグリと食の経済環境、市場環境はどうかを考えながら深化させていく。	集中
	アグリ・フード実習Ⅲ	本科目は「アグリ・フード実習Ⅱ」を継続した形で行う。知識はもとより、その技術・技法を可能な限り習得する。また、実習を通して起業、あるいは今後における就業を鑑み、就業の態度と心構えを養う。当然、学びの一端としての実習ということから、同時に知識の幅を広げ理論の構築と分析能力の育成をも図っていく。なお、業界や個別（企業）の経営構造や市場動向の把握と分析を実習の中において確かめていき、その中でグローバルな位置づけを検証することもこの科目の目的の一つである。	集中
	農業経営論	本科目を学ぶに当たっては計数的能力すなわち複式簿記の知識が前提となる。それは本科目においては、経営の裏づけとして財務諸表があり、日頃の活動の記録として簿記が存在するからである。具体的には農協協同組合や農業法人あるいは個別農家などを資料に基づき経営分析を行う。しかしながら数字は結果であることから、これらから先を読み取り組織の目標達成のための経営戦略を立てる知識・技能を養成する。また、同時に取り巻く経営環境の変化を重要視し、講義を進めていく。	
	食と文化	本科目は食文化の歴史から学ぶ。食品と人類はともに長い歴史があり、食べ物や飲み物、調理の仕方、味覚、味の楽しみ方は世界の国や地域、民族により異なる。又、酒、塩、保存する技術（干す、燻、発酵）、食と道具の知恵、食と宗教など広範囲に渡って学ぶ。わが国の食文化についてもその食材や料理の変遷についても講義し、年中行事と食、儀礼と食各地における伝統食・郷土食などを紹介する。本科においては食と文化の関係を探り、食品産業への理解を深めることを目標としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース 専門 応用 科目	商品の開発Ⅰ	本科目は新事業創出支援を目的とする「中小企業地域資源活用促進法」を核としながら観光資源や伝統技術、農林水産品の地域資源のブランド化に焦点をあて、進めていく。また、重きは農業（農林水産品）のブランド化に置くが、単に売れる商品開発でなく観光との結びつき、すなわち、地域に人を呼び込む仕組みや方策も考えていく。そのためには地域研究とケーススタディーを取り入れ一方通行にならないよう学生の興味関心と問題意識を醸成していく。	
	商品の開発Ⅱ	「商品の開発Ⅰ」に引き続き本科目を展開する。したがって同科目を履修した後に受講したほうが望ましい。日本には多様な気候風土と、それに伴った美味しい食材が全国の各地にある。しかしながら、それぞれの地域においては、それを「特産品」等として看板となっていない例が殆どである。本科目においては学生からの地域性を生かしたオリジナルなあるいはさらに付加価値をつけた特産品の提案を行う。その意味では実習に近いものがある。また、それらの試作品（特産品）は発表の場を設け多様な意見・評価をうけ、向上心と次への展開につなげる。	
	専門ゼミナールⅠ	2年次生から興味・関心あるいは自己の将来を考え、専門科目を学んだ後のゼミナールであり、2年次において事前に指導教員を決めておくことが必要である。通年を通して行う科目であり少人数で実施する。それぞれの教員の専門性を直に享受できまた、テーマに沿った授業形態が行われる。本科目は科目の中でも核となり学生にも大きな影響を与えるものといえる。文献などの当該の専門の基本的な知識の修得に努めテーマごとにグループあるいは個人においてディスカッション等を通じ論理的な能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。なお、そのほかテーマによってはフィールドワークも重視する。	
	専門ゼミナールⅡ	3年次の「専門ゼミナールⅠ」から継続して同じ教員から指導を受ける。よって3年次からの問題点や関心を抱いていたテーマについて更にふかめた研究をすすめる。なお、研究結果は整理し報告を行う。その上で質疑応答を行い、これを通じて学生の自主性を促進し、学生間で討論や分析できる力を養う。また、学生自身が導いた課題に加え、教員からも研究課題を与え、研究の深化に結びつける。なお、前年度につづきフィールドワーク等をも推し進め、実践的能力と理論の肉付けとその実証を行う。	
	観光地理	観光地における発達・形成、観光客の行動等について考察する。また、国内に留まらず諸外国の観光地域についても学習する。具体的には温泉観光地、高原観光地、都市観光地、歴史文化地域、農山村観光地域、海岸観光地など観光地域の形態ごとに分類し、各論を展開する。なお、まちづくりやガイドマップなどの実践的な手法で総合的な知識と思考力を身に付ける。これらから本科目は観光地理学に関して基礎・基本の知識と能力を修得することにある。	
	パブリックスピーキングⅠ	日本人にとっては苦手とされる議論の仕組みを理解し、論理的な分析能力や説得術、表現力などを実践的に学習する。はじめは英語スピーチを基礎から学習し、Show & Tell等のプレゼンテーションを行えるようにする。徐々にレベルを上げていき、最終的に自身の研究や興味関心事等をプレゼンテーション機材を用いて英語で発表したり、小グループやクラス全体で英語による討論が行えるようになることを目標とする。	
	パブリックスピーキングⅡ	社会人として必要な「聞く力・話す力」を演習で高めながら、パブリックスピーキングに欠かせない、論理力、表現力、理解力、対応力を身につけることを主眼とする。自ら書いた英文を基にスピーチやプレゼンテーションを行なう。毎回、興味あるトピックについて各自がスピーチ原稿を作成し、効果的なスピーチにするための推敲を重ねた上で、実際にクラスで発表する。その際、まず意見・結論を示し、次に理由を明示して正当性を裏づけ、結論に導くという手順を踏む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語・ツーリズムコース	通訳ガイド演習Ⅱ	通訳ガイド試験対策の教材に取り組みながら、日本の歴史・文化とともに、日本の地形や地理についての知識を英語で取り入れる。通訳ガイド試験の演習を行ないつつ、二次試験の面接対策も行なう。歴史や地理の知識はもちろんのこと、さまざまな日本の現代社会の問題や、独特の現代文化についても、英語で説明できるようトレーニングを重ねる。実際に英語の通訳ガイドとして活躍するプロフェッショナルの講義も予定している。	
	通訳ガイド演習Ⅲ	通訳ガイドとして活躍するために必要な、通訳技能をブラッシュアップする。これまで行なった通訳トレーニングの成果を発揮すべく、要約通訳、耳打ち通訳、逐次通訳の演習を行なう。また、日本の地理、日本の歴史、さらに産業、経済、政治および文化といった分野に至る幅広い知識について、すべて英語で表現できるようにする。通訳案内士（英語）の合格を目指し、毎回、予想問題に取り組むと同時に、二次試験の面接対策も行なう。実際に英語の通訳ガイドとして活躍するプロフェッショナルの講義も予定している。	
	通訳ガイド総合演習	通訳ガイド（通訳案内士）として、お客様の質問に的確に答えられる正確で広い知識を持ち、日本の地理、歴史、文化・社会全般、日々の暮らしぶりなどを正しく、わかりやすく外国語で紹介出来る技能を身につける。また、お客様が、安全、快適に日本を旅行できるように案内できることを目指す。通訳案内士（英語）の合格を目指し、この試験の傾向と対策を見極め、予想問題に取り組む。また、二次試験の面接対策も行なう。実際に英語の通訳ガイドとして活躍するプロフェッショナルの講義も予定している。	
	ビジネスイングリッシュⅠ	海外での会社間の取引をストーリー化し、その中で使用されるビジネス英語の基本をわかりやすくした教材を活用し、来客及び電話応対、ビジネスEメールやビジネス・レターの書き方、実社会において必要不可欠なビジネス・エチケットとプロトコール、さらに各種のプレゼンテーションやレジュメの作成など、ビジネス英語の基本的事項を広範囲にカバーする。実際のビジネス社会で通用する英語を習得できたと実感できる状態に到達することを目標とする。	
	ビジネスイングリッシュⅡ	英字新聞を教材とし、読解力の向上を図る。日本語との比較を通して、英文独特のロジックの展開や、表現方法を理解し、ビジネスシーンにおける英語のやり取りに対応できるようにする。詳しく読む読み方（Intensive reading）と、雑誌、新聞など、限られた時間に、見出しや最初の段落の最初の行だけに目を通して、大意をつかもうとする読み方（Skim reading）の仕方を習得し、ビジネスに必要な情報を効果的に得られる力を身につけることを目標とする。	
	航空ビジネス論	航空業界はこの100年の間に観光やビジネスの移動に関して重要な役割を果たしているが、業界再編や経営形態の変化が著しい。本科目は航空業界の歴史からスタートし航空ビジネスの役割や陸上や水上とは異なる特性を探る。当業界は輸送事業を核として裾野が広くなり様々な業種・職種も生まれているが、航空に関する法律や国の政策について考察し、学習を進めていく。なお、空港役割や空港スタッフの知識や対応についての理解や態度を学んでいく。また、当業界の現状と課題をさぐり、未来を展望する。	
	交通サービス論	本科目は観光交通を中心としながらも一般交通に関する諸問題についても体系的に学ぶ。交通といっても航空機、船舶、鉄道、バス、自動車など様々ではあるが、大多数は単なる移動の手段として考えている場合が多い。しかしながら列車の豪華寝台や個室、世界一周豪華客船による旅行など利用に関しての目的が異なっている現実がある。マーケティングの手法を用いて、それぞれ交通機関の特長を生かすにはどうしたらよいか。事例を参考にしながら進めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光産業実習Ⅱ	「観光産業実習Ⅰ」においては旅行を通しての実習であったが、本科目においては、社内業務及び顧客の対応等について学び旅行商品の開発を実習する。実務を通じてスキルを磨き自ら旅行と観光に対し知識と意欲を前進させ、求められる産業人として活躍できることを目的としている。なお、実際のツアーにアシスタントとして添乗し、ツアーコンダクターとしての実務を学ぶ。本科目においては事前の講義・学習、事後におけるレポートの作成と発表を行い問題意識を高め当業界への理解を深める。	集中
	専門ゼミナールⅠ	2年次生から興味・関心あるいは自己の将来を考え、専門科目を学んだ後のゼミナールであり、2年次において事前に指導教員を決めておく必要がある。通年を通して行う科目であり少人数で実施する。それぞれの教員の専門性を直に享受でき、テーマに沿った授業形態が行われる。本科目は科目の中でも核となり学生にも大きな影響を与えるものといえる。文献などの当該の専門の基本的な知識の修得に努めテーマごとにグループあるいは個人においてディスカッション等を通じ論理的な能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。なお、そのほかテーマによってはフィールドワークも重視する。	
	専門ゼミナールⅡ	3年次の「専門ゼミナールⅠ」から継続して同じ教員から指導を受ける。よって3年次からの問題点や関心を抱いていたテーマについて更にふかめた研究をすすめる。なお、研究結果は整理し報告を行う。その上で質疑応答を行い、これを通じて学生の自主性を促進し、学生間で討論や分析できる力を養う。また、学生自身が導いた課題に加え、教員からも研究課題を与え、研究の深化に結びつける。なお、前年度につづきフィールドワーク等をも推し進め、実践的能力と理論の肉付けとその実証を行う。	
	宿泊関連産業実習Ⅱ	「宿泊関連産業実習Ⅰ」に引き続きの実習である。前回の実習において未体験（未実習）の業務等を実習する。実務を通じてスキルを磨き自ら宿泊産業と観光に対し知識と意欲を前進させ、求められる産業人として活躍できることを目的としている。なお、業務における創意工夫を思考でき、提案できるよう積極的な姿勢と態度を養成する。本科目においては事前の講義・学習、事後におけるレポートの作成と発表を行い問題意識を高め当業界への一層の理解を深める。	集中
	ホスピタリティ産業の人材管理	本科目は人的資源管理についての基礎知識を学んだ上においてホテル・旅館等及び観光関連業種における人材のあり方について考察する。当該業界はサービス業であるためサービスあるいはホスピタリティ（おもてなし）の人的行為が中核となり、顧客満足と感動につながる。組織における業務の遂行はその職位により異なり、それぞれの教育が必要になる。授業においては教育プログラム事例を用い人材開発の方法論をも学習するとともにホスピタリティ産業への理解と深める。	
ホテル・ホスピタリティコース	民宿・旅館経営論	民宿はホテルに比べると事業規模が小さく簡易な宿泊施設といえる。ペンションもまた同様である。これらは温泉地あるいはスキー場などのリゾート地に点在している。市場規模が少ないことから小回り性やその持つ魅力を発揮していく必要があり、本科目では経営戦略とマーケティングに力点を置く。旅館に関しては勝ち組、負け組みが色分けされている現状にある。その原因はどこにあるのか。勝ち組の特質は経営学の対場から事例を通して学ぶ。旅館の強みはホテルにないサービスの供給でありホスピタリティが最大の強みである。民宿・旅館・ホテルの特質を押さえ、将来の経営者としての知識とともに、その態度を養う。	
	着物文化と演習	着物は日本の長い歴史の中で受け継がれて育まれてきた伝統文化である。洋服が一般化しているなかで着物の存在が海外からも注目されている。本科目では着物の歴史から日本の文化・伝統を学び着物の有用性や着物を通してマナーも身につける。なお、一人で着物の着付けができるばかりでなく、立ち振る舞いも同時に学んでいく。サービス産業で働く者ばかりでなく、ビジネスや一般社会においての着物の重要性と魅力度を再認識するとともに理解を深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ブライダル論	少子化・晩婚化によるブライダル市場は縮小傾向にあり、顧客ニーズの多様化・細分化が進んでいる。本科目はブライダル業界に興味・関心がある者、将来就職を考えている者を対象としている。業務の細やかな内容は「ブライダル実習」に譲るとして、講義方式でブライダル市場の現状と展望を探り、ブライダルビジネスの基本的な仕組みとブライダルに関わるマナーを学び業界に対しての知識・理解を目的としている。なお、結婚式・披露宴等における基本的な知識と積極的に取り組む姿勢を養う。	
	ブライダル演習	本科目を学ぶ前に「ブライダル論」を履修していることが前提である。事前の実習先の資料やパンフレット、WEBなどから情報の入手を行い事前の学習を行う。これまで学んだ知識の確認と実習による実務の体験・把握は大きな収穫となるであろう。単に実習をこなすばかりでなく、常に問題意識を持つことも重要である。現場における現状を観察・分析できる能力の育成とブライダルビジネスに対しての現場理解を深めることは本科目の狙いでもある。	
	秘書概論	秘書の役割及び身に付けるべき知識・理論を学習し、第一線のビジネス分野で活躍できる人材を育成する。現代社会を取り巻く環境は複雑で厳しく、また社会全体において情報化の進展がめざましい。情報を管理し適切な処理も求められる。このような環境の下で秘書の存在はどうあるべきか。講義を中心として授業を展開するが、ケーススタディを重視し、応用力の養成をもちかかす。これまで学んだ経営学の基礎知識をベースにしていることから経営学の実務レベルでの応用ともいえる。	
	秘書実務	経営者としての重責を担う企業トップや役員を多方面から補佐する仕事としての秘書業務がある。携わる秘書的業務がスムーズに、かつ、的確に遂行できるよう、その基本姿勢と基礎的なオフィス業務の知識、技術をロールプレイングやグループディスカッションを交えた実践力を向上させていく。ビジネス文書の作成はもとより社会人としての教養・状況対応能力、人間関係を円滑に運ぶ対応能力の修得を目指し、一般企業やサービス関連企業で働く人間としての基本姿勢を体得することを目的とする。	
	サービスと接遇	本科目においてはサービス産業におけるサービスについて論及する。また、サービス産業においてはホスピタリティが不可欠であり、ホスピタリティとは「思いやり」、「心からのおもてなし」である。接遇はもてなすこと、接待することになる。このことから接遇においてもホスピタリティが大切になる。本科目においては、これから講義のみでなく事例研究を通して参加型の授業を目指し、様々な場面でのホスピタリティ、接遇について、それらを表現できる人間性を身に付ける。同時に「サービス接遇検定」合格を目指す。	
	中国語Ⅰ	使える言葉として中国語を学び、実用的な中国語のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。そのために初期段階として、初級者向けの音声教材や映像を観ながら、正しい中国語の発音を身につける。その後基本的な文法力と会話力を養う。この科目では、正確な発音ができること、中国語の基礎力を固め基本的な語彙や文法事項を身につけること、簡単な自己紹介、日常会話ができることを目標とする。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰで学んだことを基にして、実践的な中国語のコミュニケーション能力を高めることを目指す。学んだ語彙、文法事項を使って、日常会話、ビジネスの現場における簡単な日常中国語会話ができるようにする。中級者向けの音声教材や映像を観ながら、正しく、教養のある中国語が話せるようにすることが目標である。また、中国語Ⅱでは、聞き取り能力の向上にも重点を置き、リスニングクイズやディクテーション練習を行なう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	中国語会話Ⅰ	中国語による会話の練習を繰り返し、日常会話能力の向上や異文化交流の即戦力を養成することを目標とする。様々な語彙や文法事項を学ぶとともに、必要に応じて中国の習慣やマナーなども紹介し、異文化について深く理解する。教科書の4会話を基に、オリジナル会話を作成し、教員からの添削・発音チェックを受けたあと、繰り返し練習をする。毎回数組ずつ、口頭発表を行ない、教員の指導を受ける。	
	中国語会話Ⅱ	中国語会話Ⅰを履修した学生を対象とする。基本的な文章の読み書きができ、簡単な日常会話ができることを前提として授業を進める。中国語会話Ⅰで学んだ中国語会話に関する知識、練習成果をベースとして、「聴く」「読む」「書く」「話す」に関する中国語の基本的な能力をバランスよく、さらに向上させる。さまざまな場面での日常会話を題材とした、中国語でのやりとりを通じて、どこでも対応できる実践的な中国語の力を身につけていく。	
	ロシア語Ⅰ	初めてロシア語を学ぶ学生を対象とする。アルファベットの読み方、書き方から始め、名詞代名詞、動詞の変化形、数字の書き方などの、ロシア語初級文法の習得を目指すほか、簡単なロシア語による日常会話の聞き取りを目指す。中級レベルへの準備段階としての、日常会話の習得が目標である。簡単な自己紹介の仕方、家族や友人の紹介の仕方などを中心に、教科書や、映像教材などを使って学ぶ。またロシアの文化についても紹介する。	
	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰで学んだことを生かし、アルファベットの読み方、書き方に習熟する。文法事項を復習しながら、さらに、重要な語彙や文法事項を学ぶ。名詞と形容詞の性・数・格、およびそれぞれの変化、そして動詞の変化を中心に学び、ロシア語を学ぶ上で最低限必要な文法と、基本的な文章の形を身につけ、簡単な表現であれば、書いたり、読んだりすることができるようにすることが目的である。またロシアの文化についても紹介する。	
	ロシア語会話Ⅰ	この科目では、実際のロシア人の会話を聞いたり、教科書を読むことで、各場面における適切な表現の仕方を学ぶ。まずは、ロシア語の聞き取りに慣れ、次に基本的な文法を確認しながら、ロシアで実際に使われているセンテンスを繰り返し聞いたり音読したりする。語学の第一歩は「まね」と言われる通り、まずはそっくりまねをすることで、ロシア語に慣れる。教科書に添付されているCDを用いての発音・音読練習に重点を置く。	
	ロシア語会話Ⅱ	ロシア語会話Ⅰで習得したことを基に、さらに、便利な会話表現や語彙を学ぶ。日本語とロシア語の違いを意識しながら、約300の頻出表現を確実に身につける。初級者用のテキストを使い、音読練習を繰り返し行なう。適宜、ロシア語の発音を矯正しながら、日常的な表現を使って、ペアになって会話の練習を行う。独特のリズムを身につけるために、ロシアの歌の聞き取り練習も行なう。また、映像を用いながら、最近のロシアの様子を知る。	
	韓国語Ⅰ	ハングルの書き方、発音、基本文法を習得する。そのために、テキストの本文の暗記を行なう。完璧に覚えるまで繰り返すことで、ハングルに慣れ、基本文法の定着を図る。また練習問題に取り組むことで、各章の理解度を高める。韓国語の読み書きができ、簡単な質問に答えられる、スピーキングとリスニング力をつけることが目標である。また、映像教材を使って、歴史的にも経済的にも深い関係にある韓国についての知識を深める。	
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで学んだことを踏まえ、挨拶、自己紹介、相手に簡単な質問をしたり答えられたりできるようにする。さらに、ハングルの書き方、発音、基本文法を習得する。そのために、テキストの本文の暗記を行なう。完璧に覚えるまで繰り返すことで、ハングルに慣れ、基本文法の定着を図る。また練習問題に取り組むことで、各章の理解度を高める。また、映像教材を使って、歴史的にも経済的にも深い関係にある韓国についての知識を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	韓国語会話Ⅰ	簡単な自己紹介や、日常会話ができるようになることが目標である。韓国の文化や歴史に触れながら、韓国語の会話を楽しむ。スピーキング能力とリスニング能力の向上に重点をおきつつ、あわせてリーディングとライティングの能力も身に付ける。教科書の音声教材や、映像教材を活用して実用的な韓国語会話を学ぶとともに、基本文型を定着させるために練習問題を重視する。学んだことが身に着くよう、授業中は繰り返し音読を行なう。	
	韓国語会話Ⅱ	韓国語会話Ⅰで学んだ内容を深め、韓国語の文法を駆使して会話ができること、韓国語による日常会話、ドラマの内容がある程度理解できること、韓国人と接した際に簡単な会話ができること、韓国に対する関心、興味、理解が深まることを目標とする。スピーキング能力とリスニング能力の向上に重点をおきつつ、あわせてリーディングとライティングの能力も身に付ける。学んだことが身に着くよう、授業中は繰り返し音読を行なう。	
	法学	人間が形成する社会には一定のルールがあり、それは紛争を予防し、解決するということによって安定した社会秩序を実現する。このルールというのが法である。そして国家の下では、法は法律という形式を備えて社会全体をコントロールする機能を発揮している。そこで、法律の基本的な枠組みを理解するとともに、現代社会に生じる法律問題の解決を考えることにより、法的思考能力および法的紛争解決能力を養うことにする。	
	心理学	本科目は、人間のこころの動きを科学的に解明することを目的とする。ここでの目的は、フロイト、ユングなどの心理学者を始めとした学説を概説することで心理学の歴史をたどり、現代の心理学を理解していくことである。また、心理学の諸領域、知覚、学習、記憶、思考などを学ぶことで基礎となることながら理解することで人間とは何であるのかを科学的にりかする。本科目は、心理学的な捉え方などを涵養することを目的とする。	
	経済学	近年の経済の動向は、目まぐるしく変化している。長年、貿易黒字が続いていた我が国の貿易は、赤字に転落した。経済のファンダメンタルを知ることで、経済状況を正しく理解していくことがこうした時代の変化に対応することを可能にするであろう。それ故、本科目では経済の基礎的な知識を涵養することを目的とする。マクロ経済学、ミクロ経済学の基礎的な知識についても講義していくことにする。	
	現代社会と福祉	障害者問題をテーマとする。現代人の多くは「健常者」の視点から世界を見て価値観を形成し、市民生活を営んでいる。障害者問題を視野に入れることで、人間や社会の見え方はどのように変わるのか、われわれが目指す方向軸を矯正社会の実現に求めるなら、福祉を学ぶことは知識よりも、暮らしの意識に働きかけるものとならねばならない。人間のライフコースに沿うように、具体的な生活場面に即して障害の問題を考えていく。	
	日本国憲法	本講義では、社会人として知っておくべき憲法に関して解説する。憲法とは、社会の基本的な設計図といえ、自分たちがどのような社会で生きていくか、どのような社会で生きていきたいかを考える上で非常に重要なものである。憲法は抽象的な議論が多く敬遠されがちであるが、なるべく多くの具体例を用いて、基本的なところから講義を始めるつもりである。	
	教養の自然科学	自然科学は、社会生活を営む上で必要不可欠である。住居の快適さ、省エネルギー、健康管理、環境汚染の防止などの身近な問題は、自然科学リテラシーの理解によって解決可能である。そのような理由から、自然科学に関する教養は様々な分野で問われることとなる。本講義では、身近なトピックスを手掛かりにして、自然科学の教養を深め、人間生活における自然科学の役割を認識した科学的な態度と教養を身につけることを目的とし、物理学、化学、生物学、地球科学等について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養科目	地理学	地理学は、人文地理学と自然地理学に二分されるが、この授業では後者(自然地理学)に重点を置いて進める。自然地理学は地形、気候、土壌、植生といった地球上の自然環境の生い立ちや成り立ちを扱う分野であり、守備範囲も広い。また、自然環境は人の生活の基盤であり基本である。後半では、特に日本との関わりの深い4つの国(地域)の地理的(人文地理も含めて)事象を取り上げて説明する。	
	外国史	「20世紀」は「戦争と革命の世紀」「極端な時代」と呼ばれている。本科目では「20世紀の世界」をテーマとして、第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の背景・特色・因果関係、並びに第二次世界大戦後の「脱植民地化」の推移を多角的に理解・考察する。また映像資料などを活用して、戦争の中で苦しむ民衆の苦闘・生活の実態を具体的に見つめ、把握したい。複雑な現代の国際理解に対して役立つ歴史的な知識を持つことも本科目の目的としたい。	
	教養の文章理解Ⅰ	人間の知的成長は「出会い」「経験」「読書」の三要素で完成されていく。この授業では「読書」の方法を学ぶ。「読書」で諸君の知を総合し、磨くのである。「読書」で重要なのは、つねに「なぜ」という疑問をもちながら読んでいく姿勢である。教養の文書理解Ⅰでは、基本書・名著を読むことで文章理解を深めて行くことにする。また、自分で調べることによって自分の考えを持ち情報操作に操られないような姿勢を身につけていくことも本科目の目的とすることにする。	
	教養の文章理解Ⅱ	人間の知的成長は「出会い」「経験」「読書」の三要素で完成されていく。この授業では「読書」の方法を学ぶ。「読書」で諸君の知を総合し、磨くのである。「読書」で重要なのは、つねに「なぜ」という疑問をもちながら読んでいく姿勢である。教養の文書理解Ⅱでは、近年の話題の書物、時々刻々のニュース報道、実業家の言行録を読む。また、自分で調べることによって自分の考えを持ち情報操作に操られないような姿勢を身につけていくことも本科目の目的とすることにする。	
	アウトドアスポーツ	夏季及び冬季休業中に学外において宿泊を伴う集中授業として実施する。夏季はオリエンテーリング、野外炊飯、パラグライダー、ラフティング、キャニオニング等のマウンテンスポーツやリバースポーツを、冬季はスキー、スノーボードを選択して学習する。生涯スポーツとして取り組むための基礎として各種目に関する技能を習得するとともに、各種目の特性や日本における普及の現状などに関するレポート課題に取り組むことで、アウトドアスポーツへの理解と知見を深め、観光経営学の専門的な学習に繋げていく。併せて、宿泊を伴う集団生活における自己管理のあり方や集団の合理的な運営について理解し、将来の社会生活に必要な態度も養っていく。	集中
	スポーツ&レジャー	サッカー、ソフトボール、テニス、卓球、バドミントン、バスケットボール、太極拳、ダンス、アウトドアスポーツのなかから、各自の興味関心や身体能力に応じて一つの種目を選択して履修する。高等学校までの保健体育科の学習内容を踏まえ、学生生活における健康の保持・増進や身体活動を通じたコミュニケーション能力の育成を図るとともに、生涯にわたるスポーツライフを営むための知識・技能の習得を目指す。実技では履修者の状況に応じた運動課題を設定して取り組む。併せて、運動と心身の関係やスポーツ文化についてレポート課題に取り組むことで、スポーツに関する科学的な理解と知見を深めていく。	
	宗教学	宗教とは何かについて論じる。1961年に当時の文部省宗務課の集めた定義は104種にもなった。このように多種多様変幻自在な姿を見せる宗教現象を分析対象にするのが宗教学である。宗教学は、次の三つの基本的立場を有する。①客観的に事実を問題にし主観的な価値判断は避ける。②宗教を生活現象の一局面としてとらえる。③特定の一宗教ではなくて複数の多宗教を資料として取り扱う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アジア言語入門（中・露・韓）	<p>韓国語、中国語、ロシア語のそれぞれの言語の基礎的な会話などやそれぞれの言語の文字などを中心に学習する。また、それぞれの国の文化や習慣についても学習していき、興味を持たせることを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全30回）  （47 朱貞叔10回）  韓国語 ハングルの読み書きができるようになる。  （30 梅田純子 10回）  中国語 簡体になれ簡体での表記ができるようになる。  （1 ツェリッシェフ イワン 10回）  ロシア語 ロシア文字の読み書きができるようになる。</p>	オムニバス方式
	現代社会と情報	<p>現代の社会においては、情報をその特性によって整理し、目的に合わせて利用することが常に求められる。情報リテラシーは現代社会における必須能力である。</p> <p>情報リテラシーの大きな柱の一つである情報活用能力は、情報の探索・整理・発信を行うためのコンピュータの利用やプレゼンテーションに関する能力である。もう一つの柱である情報分析力は、情報を評価し、特徴、有効性、信頼性などを見抜く能力である。</p> <p>本講義では、情報倫理、コンピュータリテラシー、情報分析、情報の科学的な理解、情報社会の諸問題など、情報社会における基礎知識を学ぶ。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。